

哲学研究總目次

(自第一卷  
至第四十三卷)

附 執筆者別索引



第二卷 大正六年（一九一七）

セザンヌ……………(一) 一・一三・32…植田 寿蔵

美学の基礎に就ての考察(未完)……………(一) 三三・四六・48  
 (二) 一〇一・三五・三七九  
 (三) 四六・四九・一〇三・489  
 (四) 六六・五七六・六六・604  
 (五) 九六・七二一・一七・739  
 (六) 一〇一・846・一三三・867  
 (七) 一〇三・1248・一〇一・1264  
 (八) 六三・1365・一一・1383

探求の態度と安心の態度……………(一) 四二・49・三三・72…姉崎 正治

自覚に於ける直観と反省(承前)……………(一) 四二・73・一〇〇・100  
 (二) 一〇一・227・一三三・252  
 (三) 四〇・454・一三三・463  
 (四) 六三・547・六三・575

琉球過去の文化と教育……………(一) 一〇一・101・一一六・118…平内房次郎

周易に見えたる倫理説(五則)……………(一) 一・127・三三・148…高瀬武次郎

個人的差異に因由する学校組織の新運動と将来の学校組織……………(一) 三三・149・六三・184  
 (二) 六三・321・一〇〇・356

聯想反応作用の速度發達の経路及び其標式……………(一) 六三・185・一〇〇・226…榑崎浅太郎

倫理上の見地より観たる所謂社会防衛説……………(一) 一・257・三三・299…藤井健治郎

宗教的規範意識……………(一) 三三・300・一三三・320…赤松 智城

数理の認識……………(一) 一・385・一六・445…田辺 元

剪嵌細工視的空間圖の測定……………(一) 六三・446・六三・453…黒田 源次

コーエンの非有……………(一) 一〇六・490・一一七・501…岡野留次郎

ヘルマン・ロッツェ……………(五) 一・509—一六・546…朝永三十郎

ダーナンダの性行……………(五) 六三・605—一〇三・613…羽溪 了諦

リボー先生の想い出……………(五) 一〇六・614—一〇一・618…野上 俊夫

ダーナンダの思想……………(六) 一・623—三三・644…羽溪 了諦

感情に関する諸問題……………(六) 三三・645—三三・674…千葉 胤成

社会の全体と部分……………(六) 三三・675—三三・697…高田 保馬

公理体系の二種……………(六) 六三・698—六三・720…園 正造

宗教の社会的表現に就いて……………(七) 一・745—三三・776…宇野 円空

神社と宗教……………(七) 三三・777—三三・799…松本文三郎

ニイツェの学制論……………(七) 六三・800—三三・818…小西 重直

時間論……………(七) 一・875—三三・923…田辺 元

感情の心理……………(七) 五〇・924—六三・956…野上 俊夫

——リボーの学説——

論理的に就て……………(八) 六三・957—一〇〇・984…野崎 広義

懺悔としての哲学……………(八) 二一・985—三三・997…野崎 広義

ロッツェ妥当説……………(九) 一・1005—三三・1042…錦田 義富

の由来(未完)……………(九) 六三・1202—一〇三・1247

ロッツェの時代……………(九) 六三・1043—三三・1076…朝永三十郎

若きヴェテルの悩み……………(九) 三三・1077—六三・1096…成瀬 無極

平等個人主義(平民主義)と差別個人主義(貴族主義)……………(九) 六三・1097—一〇〇・1124…藤井健治郎

自然科学的認識の性質……………(九) 三三・1125—一三三・1142…安部晴之助

コーエンの倫理説……………(十) 一・1145—一三三・1170…西 晋一郎

ミカイロヴスキーの社会学説の創始……………(十) 三三・1171—三三・1201…米田庄太郎

の価値(未完)……………(十) 三〇・1342—六三・1384

大塩中斎の学説……………(十) 一・1273—一三三・1300…高瀬武次郎

### 第三卷 大正七年(一九一八)

ルソオの画ける自然……(一) 元・1301—六・1333…植田 寿蔵  
 力の觀念の歴史的發達……(十一) 三・1334—六・1341…桑木 彥雄  
 最近のライブニッツ研究に就て……(十二) 一・1395—三・1429…錦田 義富  
 十九世紀後半に於ける倫理學說の發達……(十三) 六・1430—三・1457…中島 力造  
 デューイの教育論(未完)……(十四) 六・1458—八・1483…篠原 助市

意識とは何を意味するか(一) 一・1—一六・28…西田幾多郎  
 客観的心理學に就て……(二) 一・29—五・53…千葉 胤成  
 社会的正義に就て……(一) 五・54—八・80…藤井健治郎  
 デューイの教育論(承前)……(一) 八・81—二〇・108…篠原 助市  
 美しき靈の告白……(一) 一〇・109—二六・119…成瀬 無極  
 ヤージュナブルキヤの見たる希臘輪廻思想……(二) 一・132—三・164…本田 義英  
 独逸唯心論に於ける哲學的認識の問題……(二) 三・165—六・208…田辺 元  
 ミカイロフスキーの社會學說の創始的価値(承前)……(四) 〇・508—二二・535…米田庄太郎  
 精神物理學の職分に就いて……(一) 一〇・235—一五・247…岩井勝二郎  
 輪廻転生と解脱……(三) 一・257—六・304…齋藤 唯信  
 極限概念(Grenzbegriff)としての文化価値……(三) 四・305—八・341…左右田 喜一郎  
 神秘主義の爲に……(三) 二六・334—三三・392…岡本 春彦  
 本邦に於ける祖先崇拜の形式及意義の変遷……(四) 一・403—三六・423…春山 作樹  
 ストウムブの情覺說……(四) 三三・429—五・458…野上 俊夫  
 (五) 八・619—一五・653

象徴と觀念……(四) 五・459—六・471…岡本 春彦  
 —芸術と哲學—  
 ロッソエ妥當說の由来(承前)……(四) 四・472—一〇・507…錦田 義富  
 (二) 四・710—六・733  
 喜劇と妄想(未完)……(五) 一・539—三・553…今村 新吉  
 カールイルの思想の哲學的背景……(五) 三・564—五・582…朝永三十郎  
 美術史の対象……(五) 五・593—八・618…植田 寿蔵  
 左右田博士の著「經濟哲學の諸問題」を読む……(五) 二六・654—三二・662…田辺 元  
 感 覺……(六) 一・667—三・693…西田幾多郎  
 識別作用の非相称性……(六) 二・694—四・709  
 に関する実験的研究……(七) 四・859—六・881…千葉 胤成  
 (九) 一・1103—三・1128  
 美學の基礎に就ての考察(承前)……(六) 六・734—八・749…深田 康算  
 ファイドラー「近代自然派と芸術上の真」……(六) 八・750—一〇・756…勝部 謙造  
 心情の無限……(七) 一・766—一〇・775…西 晋一郎  
 感 情……(七) 二・776—四・807…西田幾多郎  
 司馬遷の經學……(七) 四・808—六・827…狩野 直喜  
 心理学と客観的方法(未完)……(七) 六・828—八・838  
 (八) 七・964—一〇・1003…植崎淺太郎  
 (十一) 七・1335—一〇・1356  
 (十二) 一〇・1480—一二・1505  
 高次の対象……(八) 一・887—四・926…山内 得立  
 呪術に於ける合理性の意識……(八) 四・927—六・945…宇野 円空  
 シュタムラーの社會哲學……(八) 六・946—九・963…藤井健治郎  
 —客観徳學の定礎に関して—  
 ズルケムの計及び其の社會學的研究……(八) 二六・1004—三三・1009…銅直 勇

ディルタイの記載的  
分析の心理学……………(六) 一・1013—三・1045…勝部 謙造

美の具象性……………(六) 三・1046—五・1067] 深田 康算

実践理性批判の  
根本問題に就て……………(七) 三・1217—九・1237]

個別的因果律の論理  
に就きて左右田博士  
の教を乞ふ……………(七) 三・1068—五・1102…世良 寿男

ヘルマン・コ  
ーエンに就て……………(七) 三・1129—三・1138…田辺 元

デカートの「規則論」に現  
はれたる批判論的思想……………(十) 一・1147—一・1164] 朝永三十郎

交換遠近錯覚の  
変換時間に就て……………(十) 一・1321—一・1334] 源次

米國に於ける黒  
人教育の發達……………(十) 一・1165—五・1197…黒田 源次

法理と倫理……………(十) 三・1198—五・1216…小西 重直

奥義書と起信論……………(十) 三・1238—一〇・1248…安部晴之助

——起信論は果して支那撰述なるか——  
……………(十) 三・1253—三・1275] 羽溪 了諦

ライブニッツ哲学の意義……………(十一) 二・1453—一〇・1479]

個別的因果律に関  
して更に田辺博士  
の教を俟つ……………(十一) 一・1276—六・1320…田辺 元

ロダンに於ける  
肉体的と精神的  
生命と思辨……………(十二) 一・1357—一五・1367…左右田 喜一郎

——フイヒテ研究より——  
……………(十二) 一・1418—八・1452…久保 正夫

第四卷

大正八年(一九一九)

ソフィストとソクラテス(一) 一・1509—三・1531…波多野精一

カントの歴史哲学……………(一) 二・1532—四・1548]

黒白系統の両眼  
視現象について……………(一) 二・1830—四・1846] 米田庄太郎

「タブー」論……………(一) 二・676—四・697] 黒田 源次

——穂積及精博士の論文を読み——  
……………(一) 四・788—一〇・814]

創造的衝動と生産  
的衝動に就て……………(一) 二・1578—三・1620…赤松 智城

經驗内容の種  
々なる連続……………(一) 二・1621—三・1643…園 頼三

白、灰色及び黒の  
両眼視現象通論……………(二) 一・1647—一・1674] 西田幾多郎

心理学と客観  
的方法(承前)……………(二) 三・1808—三・1829]

エミール・ブートルー……………(二) 二・1675—五・1697…黒田 源次

中島教授墓去……………(二) 三・1698—一〇・1754…植崎浅太郎

機能的宗教心理学……………(二) 一・1755—二・1761…勝部 謙造

資本未分……………(二) 一・1767—一・1763…藤井健治郎

将来社会観の種々……………(三) 一・1767—一・1792…石神 徳門

支那思想史より  
観たる河南省……………(三) 二・1793—四・1807…久松 真一

薬師寺三尊論……………(三) 一・1847—九・1863…高田 保馬

アリストテレー  
スの倫理と経済……………(四) 一・361—一・379…服部宇之吉

実践的感情移  
最近に就て……………(四) 一〇・380—一三・427…土田 杏村

F. M. Urban氏の  
精神物理学的方法……………(四) 六・428—九・451…藤井健治郎

と其応用(一)……………(四) 六・452—一〇・469…尾生光三郎

意志の内容	(五) 7・497—106・526	西田幾多郎
無意識	(六) 7・624—106・644	
戒律の社会学的見解	(七) 7・527—100・540	千葉胤成
心理的非心理的	(七) 7・645—106・675	
統方の難易 (Usurbarkeit)	(七) 7・766—107・787	
に関する実験に就いて	(七) 7・541—106・574	谷本富
ケール博士	(七) 7・575—106・604	務合理作
論文集 (雜文)	(七) 7・607—107・623	野上俊夫
支那の竈神に就いて	(八) 7・698—101・708	深田康算
シェルリングに於ける絶対者の概念	(七) 7・711—106・726	狩野直喜
形式論理学の対象	(七) 7・727—106・765	久保正夫
デカートの「規則論」に於ける「直覚」	(七) 106・815—111・821	安部晴之助
感覺の強度に關する疑義	(八) 7・844—106・874	植崎淺太郎
フィンセント・ファン・ゴッホ	(八) 7・875—106・915	植田壽藏
フィヒテの道徳学に就いての考察	(八) 7・916—106・937	世良壽男
意識の明暗に就いて	(八) 7・1031—107・1059	
ピアニストの仕事	(八) 7・1351—107・1392	
董仲舒学説一斑	(九) 7・943—106・957	西田幾多郎
民主的生活の基礎としての米國小学教育の發達大観	(九) 7・958—106・979	兼常清佐
カントの定言命令の形式性に就いて	(九) 7・980—106・1000	浦川源吾
	(九) 7・1001—106・1030	小西重直
	(十) 7・1065—106・1095	錦田義富

ロイスの「意味」	(十) 7・1096—100・1124	河瀬憲次
体験の哲学	(十) 7・1125—106・1142	勝部謙造
ビネエ・シモン式知能検査法の公算論的見解	(十) 7・1143—106・1157	岩井勝二郎
認識主観の問題 (未完)	(十) 7・1161—106・1186	田辺元
宗教的対象と人格觀念	(十) 7・1187—106・1204	宇野円空
仏教の預言説 (未完)	(十) 7・1205—107・1247	手島文倉
価値の体系	(十) 7・1248—106・1283	
—文化価値と創造者価値—	(十) 7・1314—106・1350	左右田喜一郎
山崎闇斎の学説	(十) 7・1287—106・1294	高瀬武次郎
善悪因果の内面観	(十) 7・1295—107・1313	齋藤唯信
拙著「社会学原理」の批評に答へ	(十) 107・1393—106・1410	高田保馬

  

北米の国土と其芸術	(一) 7・1—106・41	松本亦太郎
道徳と幸福との關係について	(一) 7・42—106・67	藤井健治郎
仏教の預言説 (承前)	(一) 7・68—106・95	手島文倉
神と創造	(一) 7・96—106・113	久松真一
基本的と附加的と	(一) 7・114—106・120	野上俊夫
認識主観の問題 (承前・未完)	(一) 7・123—106・148	田辺元
プラトーの美学 (未完)	(一) 7・149—106・163	
生活準備と連続的發展	(一) 7・101—106・648	101・667
調首感覺の屬性に就いて	(一) 7・911—106・930	101・930
	(一) 7・1345—106・1385	
	(一) 7・164—106・193	篠原助市
	(一) 7・194—106・205	岩井勝二郎

第五卷 大正九年 (一九二〇)

在支外人の支那人教 化運動と其の動機	(三)	206—108	226	田中 広吉
美の本質	(三)	1・227—三	251	西田幾多郎
デカートの倫理思想 とカントの倫理説	(四)	一六・368—四	392	朝永三十郎
相対的変化開發達の 客観的・内観的考察	(三)	四・274—三	299	榎崎浅太郎
約翰伝福音書の 宗教哲學的思想	(三)	四・300—四	332	日野 真澄
心理的前定に就いて	(三)	10・333—三	348	務台 理作
喜劇と妄想(承前・未完)	(四)	一・351—一	367	今村 新吉
フイヒテの歴史哲學	(四)	四・393—三	421	久保 正夫
優良兒教育の沿革	(四)	三・422—六	429	伊藤 猷典
現実主観	(五)	一・433—四	473	河瀬 憲次
芸術家の悩み	(五)	四・474—四	486	成瀬 無極
視野闘争過程 の一般的性質	(五)	五・487—六	493	黒田 源次
睡眠に就て	(五)	六・527—四	541	深田 武
ピアノのむづ かしさに就て	(六)	一・547—三	575	兼常 清佐
諸種の社会の相互關係	(六)	10・576—六	612	高田 保馬
元曲に見えたる 支那の婚俗	(六)	六・613—六	635	浦川 源吾
「我」より見たる 自覚教と救済教	(六)	20・636—四	647	佐々木月樵
定言命令の一般性と 個性との關係に就て	(七)	一・671—一	685	錦田 義富
ユウゼヒス	(七)	一六・686—四	710	植田 寿藏
ドラクロー	(八)	五・818—六	851	

——主に國家と全体社会との關係を以てし——

古代埃及の芸術に就いて	(七)	四・711—五	729	松本文三郎
個性の理解	(七)	〇・750—六	758	三木 清
原始僧團に於ける 比丘の極重罪	(八)	一・761—三	782	手島 文倉
自然の理性化	(八)	四・1194—七	1224	西 晋一郎
批判哲學と歴史哲學	(八)	一・895—一	910	清
——カント哲學への瞥見——	(八)	六・1112—一	1140	
精神測定の原理としての 誤差の法則	(九)	10・997—三	1023	岩井勝二郎
社会科学の性質に關する コインの見解に就て	(十)	一・1025—一	1036	藤井健治郎
判断対象の構成に就て	(十)	三・1037—四	1071	三宅 剛一
倫理學の対象としての 道徳的価値判斷の性質に就て	(十)	四・1072—八	1111	世良 寿男
近代労働者階級の 哲學思潮	(十一)	一・1147—二	1157	米田庄太郎
知覚と想像	(十一)	三・1158—四	1193	務台 理作
アッハの意志説	(十一)	六・1225—九	1239	大脇 義一
カントとシユライエ ルマツト(未完)	(十一)	一・1247—一	1263	勝部 謙造
基督教修道院 の宗教思想	(十二)	一・1263—五	1304	日野 真澄

第六卷 大正十年(一九二一)

意識の程度に就て	(一)	一・一	二五	千葉 胤成
教育の基礎觀念 としての自我	(一)	三・26—四	47	吉田 熊次

古神道に於ける道徳意識とその發達	(一)	49—66	村岡 典嗣
前行の視野鬭争の後行の視野鬭争に及ぼす影響	(一)	69—116	黒田 源次
喜劇と妄想(系前・未完)	(二)	121—131	今村 新吉
認識主観の問題(系前)	(二)	132—169	田辺 元
意志の本質	(二)	170—186	大脇 義一
カントとシュライエルマツハル(系前・未完)	(二)	187—199	勝部 謙造
パウロ・ナトルプ「ベスタロツチの理想主義」(一九一九年)を読む	(三)	200—212	長田 新
ナン氏の教育説	(三)	213—223	伊藤 猷典
カントの永遠的平和論の半面	(三)	225—253	朝永三十郎
児童期に於ける精神發達の停滞現象に就いて	(三)	254—285	植崎淺太郎
合理性対非合理性の問題を通じて観たる「極限概念の哲学」	(三)	307—339	左右田 喜一郎
感情の内容と意志の内容	(四)	343—399	西田幾多郎
歴史的因果律の問題	(四)	429—469	三木 清
プラトローの美学(系前・未完)	(五)	473—484	深田 康算
社会的教育学の概念	(五)	491—548	篠原 助市
救済の論理	(五)	549—557	久松 真一
精神物理学上の二三の問題に就いて	(五)	558—563	岩井勝二郎

道徳の特質に就て	(六)	571—581	西 晋一郎
絵画の対象	(六)	612—645	植田 寿蔵
漢書芸文志の歴史觀	(六)	695—706	丹羽 正義
哲学と生活	(六)	707—727	勝部 謙造
ハウプトマンの神秘主義	(六)	728—738	成瀬 無極
關係対象に就いて	(七)	758—781	務台 理作
思惟の心理学的研究に就いて	(七)	789—808	大脇 義一
伊藤仁斎の教育効果論	(七)	809—830	高橋 俊乘
シーク教の過去及び現在	(七)	831—838	手島 文倉
理念としての神の實在性	(七)	899—919	浜田 与助
真善美の合一	(七)	923—972	西田幾多郎
教育学の論理	(七)	973—999	辻 幸三郎
本天台戒律に於ける日合衆國に於ける公民科教授	(七)	1000—1026	宮城 信雅
カントに於ける認識客観性の問題(未完)	(七)	1067—1084	岡野留次郎
労働の倫理	(七)	1085—1116	藤井健治郎
シェリングに於ける自由の哲学の發展(未完)	(七)	1143—1162	世良 寿男
文化価値体系	(七)	1167—1181	米田庄太郎
博愛主義と利己主義	(七)	1182—1213	高瀬武次郎
ミレヘ	(七)	1240—1266	植田 寿蔵
宗教と形而上学	(七)	1289—1353	久保 正夫

—フレイヒテの宗教哲学の研究—





ボルツァーノの自伝……………(十一) 六・1203—六・1204…西田幾多郎  
 新独逸の道徳教育……………(十二) 一・1211—一・1226…小西 重直  
 借乎バルト教授……………(十二) 三〇・1240—三〇・1254…伊藤 猷典  
 パーリ氏の心……………(十二) 三二・1255—三二・1259…岩井勝二郎  
 現現状論……………(十二) 三二・1255—三二・1259…岩井勝二郎  
 実有様相と因果律の問題……………(十三) 五〇・1260—六〇・1278…ニコライ・ブルハルトマン 務台 理作訳

## 第八卷 大正十二年(一九二三)

規範……………(一) 一・1—一・17…西 晋一郎  
 男女共学について……………(一) 一八—三〇…野上 俊夫  
 歴史の意義に関してギリシヤ思想とヘブライ思想……………(一) 三二—三九—五五…波多野精一  
 常識實在論の基礎づけ……………(一) 五五—六四…久松 真一  
 教育学方法論……………(一) 六五—七三—七七—八三—八七—九三—九七—一〇三—一〇七—一一三—一二〇—一二六—一三二—一三八—一四四—一五〇—一五六—一六二—一六八—一七四—一八〇—一八六—一九二—一九八—二〇四—二一〇—二一六—二二二—二二八—二三四—三〇〇…伊藤 猷典  
 絵画の優劣は如何にして可能なるか(素描)……………(二) 一・83—二・103—二・397—三・417—三・579—三・600…植田 寿蔵  
 公羊家の文化階段説……………(二) 三・104—三・119…小島 祐馬  
 法と道徳……………(二) 六・120—三・144…西田幾多郎  
 メデイクスの道徳的評価の二原理……………(二) 六・160—六・180…世良 寿男  
 個体概念を通じて観たる「形而上学の要求」……………(三) 一・183—三・207…河瀬 憲次  
 デカート哲学に関する二二三の考察……………(三) 六・208—六・228…朝永三十郎  
 児童精神力の性的差異……………(三) 七・229—八・263…植崎浅太郎

認識論より見たる相對性理論……………(三) 六・264—二・293…カッシーラ 岡野留次郎訳  
 山鹿素行に於ける古学思想の發達……………(四) 一・297—一・315…加藤 仁平  
 神学の方法論に關する一考察……………(四) 一四・508—一七・521…  
 主觀的普遍に就て……………(四) 一〇・316—一〇・326…久松 真一  
 物理学の基礎……………(四) 三・327—五・352…務台 理作  
ヒルベルト 三土 興三訳  
 道徳的美……………(五) 三・418—三・433…深田 康算  
 綜合的統一について……………(五) 三・433—五・452…三宅 剛一  
 コントの社会連帶思想(未完)……………(五) 六・639—三・691…  
 米田庄太郎  
 パスカルの「賭」……………(五) 五・453—五・470…米田庄太郎  
 「宋子の学」……………(五) 五・471—五・488…小林太市郎  
 綜芸種智院について……………(六) 一・495—三・507…浦川 源吾  
 道徳獨特の實現方法……………(六) 元・523—六・540…高橋 俊乘  
 カントの Noumena と先驗的自由とに就て……………(六) 四・541—〇・574…西 晋一郎  
 木村 素衛  
 仏陀と摩訶毘羅……………(六) 三・601—〇・638…  
 羽溪 了諦  
 シルラーが美学上の功績(未完)……………(六) 一・695—三・713…  
 二・797—三・825…  
 深田 康算  
 社会的正義について……………(七) 三・719—五・750…  
 二・1108—八・1122…  
 藤井健治郎  
 ケーベル博士の逝去……………(七) 五・751—五・789…  
 一正義の本質—  
 深田 康算  
 無我論(未完)……………(七) 六・790—六・793…  
 三・826—五・846…  
 三・941—七・971…  
 一・1075—三・1107…  
 三・1178—六・1222…  
 手島 文倉  
 社会意識……………(七) 五・847—六・872…銅直 勇

直接に与へられるもの	(一七) 873—111・907…	西田幾多郎
教育概念の基礎づけ	(一八) 1・911—三〇・940…	伊藤 猷典
歴史的と芸術的	(一九) 三三・972—六六・1009…	西 晋一郎
内部知覚と其対象に就て	(二〇) 100・1010—111・1032…	務台 理作
自律の法理的意義	(二一) 1・1035—四〇・1074…	恒藤 恭
ダンテの詩	(二二) 六六・1123—111・1155…	クローチェ 大賀寿吉共訳 黒田正利
文化教育学の出づるまで(未完)	(二三) 1・1157—111・1177…	長田 新
ヘッバーリン教授の計と氏の教育説の基底たる神の論証に就て	(二四) 六六・1223—六六・1232…	伊藤 猷典
「理論心理学撮要」	(二五) 七三・1233—九二・1248…	大脇 義一
公算論の諸原理(一)	(二六) 三三・1249—九七・1253…	戸板 潤訳

第九卷 大正十三年(一九二四)

文化教育学の出づるまで(承前)	(一) 1・1—19…	長田 新
カントとシュライエ	(二) 10・20—三三・33…	勝部 謙造
ルマツヘル(承前)	(三) 三三・34—六六・82…	世良 寿男
自由の可能に就て	(四) 四〇・1074—六六・1102…	世良 寿男
シラーが美学上の功績(承前)	(五) 一八・83—九二・99…	深田 康算
無我論(承前)	(六) 三三・103—111・123…	手島 文倉
カント体系の所謂欠陥問題	(七) 三三・124—七三・179…	平田 元吉

Hegel's Phänomenologie des Geistes	(一) 六六・180—七一・263…	三十七 興三
回教思想の特色	(二) 1・269—一六・286…	赤松 智城
個体と自由	(三) 一六・287—三三・305…	河瀬 憲次
内部知覚について	(四) 三三・306—六六・334…	西田幾多郎
コントの社会連帯思想(承前)	(五) 六六・964—九二・995…	西田幾多郎
人格主義として	(六) 九二・1103—111・1120…	米田庄太郎
ブレントノーの精神現象の分類	(七) 三三・335—六六・344…	藤井健治郎
靈魂觀念の分化について	(八) 三三・384—六六・396…	米田庄太郎
ダンテとトマス・アクキナス	(九) 六六・72—九二・77…	藤井健治郎
令制の国学について	(一〇) 三三・372—六六・383…	藤井健治郎
カント生誕二百年記念会に際して	(一一) 四六・660—111・678…	島崎 得道
實在に就て	(一二) 四六・397—六六・424…	島崎 得道
ペスタロッチの宗教教育	(一三) 四六・427—六六・455…	宇野 円空
宗教的対象としての歴史的な人格	(一四) 三三・456—六六・483…	黒田 正利
カントの目的論	(一五) 三三・484—六六・513…	高橋 俊乘
視覚に於ける水線及び錘線の成立	(一六) 六六・514—111・537…	朝永三十郎
歴史と教育	(一七) 三三・538—111・549…	久松 真一
	(一八) 三三・555—110・564…	小西 重直
	(一九) 一・565—三三・583…	菅 円吉
	(二〇) 三三・584—六六・615…	菅 円吉
	(二一) 三三・738—六六・761…	田辺 元
	(二二) 三三・833—六六・872…	田辺 元
	(二三) 一・681—四一・721…	植田 寿藏
	(二四) 四一・722—五二・737…	大西 友太

教育目的とし  
ての価値体系……………(一〇) 1・779—12・807  
(十一) 1・1141—12・1176 伊藤 猷典

武士道の起源及び特質……………(七) 10・808—12・834  
(八) 10・921—12・963  
(九) 10・1029—12・1073 高橋 俊乘  
(十) 10・1221—12・1240  
(十一) 1・1243—12・1270

具体的人性の研究……………(六) 10・873—12・896 野上 俊夫  
—ホール先生を拜ふ—

山鹿素行に於ける士  
道論的思想の發達……………(六) 1・839—12・920 加藤 仁平  
(七) 1・1005—12・1028

故マックス・フリップシヤ  
イゼン・ケラーの教……………(六) 10・996—12・1002 伊藤 猷典  
教育学界に於ける功績

フイロストラト……………(十一) 11・1121—12・1138 深田 康算  
スの「構想力」……………(十一) 11・1313—12・1328

Das Reale……………(十一) 11・1177—12・1220 西谷 啓治  
Das Ideale……………(十一) 11・1271—12・1312  
—シェリングの同一哲学を中心として—

カント哲学と  
現代の科学……………(十一) 11・1329—12・1344 戸坂 潤

第十卷 大正十四年(一九二五)

勞作教育の問題……………(一) 1・1—12・21 小西 重直  
物理的空間の成立まで……………(一) 11・22—12・76 戸坂 潤  
—カントの空間論—

時の原始的状態に就て……………(一) 11・77—12・160 務台 理作  
(二) 11・240—12・264

詩的想像力と狂氣……………(一) 10・107—12・124 高坂正顕 訳  
—デイルタイ—

教育方法の原理……………(三) 1・127—12・142 伊藤 猷典  
(四) 1・211—12・239

カントに於ける  
transzendentaler Ge-  
genstand "objektiver  
werden" への就て……………(二) 11・143—12・178 木村 素衛

物理的空間の実現……………(三) 11・179—12・209 戸坂 潤  
形態性論(フアン・ユール  
ンフェルス)……………(三) 11・265—12・281 岩井勝二郎

現代に於ける教  
育学の基礎付け……………(四) 1・285—12・302 長田 新  
(五) 10・404—12・423  
(六) 1・561—12・587

フキヒテの知識学……………(四) 11・303—12・327 河瀬 憲次  
(五) 10・424—12・470  
(六) 11・328—12・370 田辺 元  
(七) 11・613—12・650

直感知と物自体(未完)……………(四) 11・375—12・403 植田 寿蔵  
ミケランゼロ……………(五) 1・448—12・460 シンゲンゲル  
理念に就いての歴  
史的と非歴史的……………(六) 11・521—12・530 岡野留次郎 訳  
(七) 10・661—12・668

歴史的時間の問題……………(五) 11・461—12・481 高坂正顕 訳

菅家遺誥とそ  
の和魂漢才説……………(六) 1・483—12・504 加藤 仁平  
(七) 11・588—12・612  
(八) 11・706—12・739  
(九) 11・942—12・978

社会学の一元論的方  
針とモナド論的方針……………(六) 11・505—12・520 淡 徳三郎  
(七) 10・740—12・762  
—デュルケムの社会学方針に対する一考察—

教育哲学の要綱……………(六) 11・531—12・538 伊藤 猷典  
過渡経験に就て……………(六) 11・539—12・547 大脇 義一  
モーアの宗教發生論……………(六) 11・548—12・556 菅 晋一郎  
悪に就て……………(七) 11・651—12・660 西 晋一郎  
呪術の發生に……………(八) 11・671—12・686 宇野 円空  
関する問題……………(九) 11・824—12・845

古代支那人崇拜の大神	(一〇)	一・687—三・705	浦川 源吾
特に「五祀」に就いて	(一〇)	二・763—三・783	羽溪 了諦
印度のビルローン	(九)	一・787—三・823	五十嵐 信
フイアカントの	(九)	一・917—三・941	五十嵐 信
社会学概念に於ける	(九)	一・1157—三・1194	五十嵐 信
二三の問題	(九)	一・846—三・870	俊乗
我が国古代の道	(九)	一・979—三・1006	高橋
徳と儒教(未完)	(九)	一・1064—三・1087	文倉
無明原理論	(九)	一・871—三・909	手島 文倉
働くもの	(九)	一・1007—三・1046	西田幾多郎
精神科学的心理学と青年教育の基礎的研究	(九)	一・1049—三・1063	小西 重直
ディルタイの心理学的理念の基本的なるものに就いて(未完)	(十一)	四〇・1088—六二・1110	榑崎浅太郎
論理的普遍妥当性と美的普遍妥当性	(十一)	三・1111—八・1129	赤松 元通
モーグの教育作用説	(十一)	八・1130—九・1145	伊藤 猷典
社会と模倣	(十一)	九・1146—一〇・1155	銅直 勇
カントに於ける「自然」概念の「つ」の意味(未完)	(十二)	三・1195—三・1227	高坂 正顕
朱子の礼論に関する一考察(未完)	(十二)	三・1228—六・1244	後藤 俊瑞
カント哲学と数学的自然科学	(十二)	六・1245—一〇・1265	朝永三十郎

第十一卷 大正十五年(一九二六)

知覚判断に就いて……………(一) 一・一—三・37…赤松 元通

ディルタイの心理学的理念の基本的なるものに就いて(承前・未完)	(一)	六・38—九・59	榑崎浅太郎
我が国古代の道	(一)	六・60—七・77	高橋 俊乗
ディルタイの哲学的方法	(一)	六・78—七・97	勝部 謙造
機械作用と身体の個性(未完)	(二)	三・247—四・268	大西 友太
神曲の倫理思想及びその組織	(二)	三・325—六・340	黒田 正利
朱子の礼論に関する一考察(承前)	(二)	一・101—三・159	後藤 俊瑞
プロテイノスとカント	(二)	一・160—三・183	波多野精一
—宗教哲学の二つの任務—	(二)	六・184—九・199	大脇 義一
作用心理学瞥見	(三)	一・223—四・246	齊藤 唯信
真俗二諦の史的考察	(三)	四・269—五・297	深田 康算
ライブニッツと美学	(三)	六・298—九・317	久松 真一
プロテイノスの絶対的成就	(四)	一・341—三・354	須永 克己
音楽理論の研究	(四)	三・355—五・374	三毛 表説
詩的表現の対象としての悪	(四)	五・375—六・385	高瀬 安貞
物的及心的現象と感覺	(五)	四・462—五・482	高坂 正顕
カントに於ける「自然」概念の一つの意味(承前)	(五)	一・389—三・420	西田幾多郎
場 所……………	(六)	一・483—九・581	戸田 三郎
ディルタイ著「哲学の本質」の邦訳に就いての質疑	(六)	一〇〇・582—三・605	三郎

第十二卷 昭和二年(一九二七)

問の構造……………(七) 齋・670—七・678) 三木 清  
 —解家学的研究—  
 現象学的傾向……………(七) 七・679—七・696…坂田 徳男  
 デイルタイ著「哲学の本質」の邦訳に就いて……………(七) 九・697 ……勝部 謙造  
 教育学の性質につきまての一考察……………(八) 一・701—三・725…伊藤 猷典  
 宗教的体験の受動的特質……………(八) 三・726—四・742…佐藤 繁彦  
 —特にルッターの体験について—  
 カント倫理学に於ける Person 並に Person-Ichkeit の概念……………(八) 三・743—七・779…柳田謙十郎  
 プラトンのパイド……………(八) 八・780—八・788 ……ジョン・バリ 田中美知太郎訳  
 権威に就いて……………(九) 一・793—四・816…藤井健治郎  
 形式化と普遍化……………(九) 三・817—六・875…本田 謙三  
 西田哲学の方法に就いて……………(十) 一・913—四・942…左右田 喜郎  
 —西田博士の教を乞ふ—  
 プラトンの「パルメニデス」……………(十) 三・943—六・988…田中美知太郎  
 —所謂第三の人間(プラトンの「メテオロ」)  
 範疇としての空間……………(十) 三・989—二・1023) 戸坂 潤  
 —之はこの習作である—  
 直観知と物自体(承前)……………(十一) 一・1025—三・1051…田辺 元  
 静 物……………(十一) 三・1052—四・1068…鼓 常良  
 プラトン哲学私断……………(十二) 一・1113—三・1174…菊池慧一郎  
 第一・三部論(未完)  
 石川謙氏の寺子屋起源論……………(十二) 二・1230—三・1248…高橋 俊乗

デイルタイの心理学の理念の基本的なるものについて(承前)  
 プラトン哲学私断 第一・三部論(承前)……………(一) 一・1—一・18…榑崎浅太郎  
 カントの宗教論に於ける歴史の問題……………(一) 九・19—一〇・94) 菊池慧一郎  
 —附、最高善の演繹—  
 ベスタロッテ……………(一) 九・95—一〇・126…高坂 正顕  
 と其百年記念祭……………(二) 一・129—二・140…小西 重直  
 ベスタロッテの直観論……………(二) 三・141—四・176…長田 新  
 ベスタロッテ遺跡巡礼記……………(二) 四・177—五・183…野上 俊夫  
 ベスタロッテの手紙……………(二) 五・184—七・200…有馬良治訳  
 「寺子屋史研究」の法論」に関して高橋文学士の批評に答ふ……………(二) 三・201—六・224…石川 謙  
 弁証法の論理(未完)……………(三) 一・227—二・247) 田辺 元  
 ……(三) 一・423—三・459) 田辺 元  
 ……(三) 一・603—三・638) 田辺 元  
 機械作用と身体の個性(承前、未完)……………(三) 三・301—五・341) 大西 友太  
 ……(三) 三・807—五・845) 大西 友太  
 ……(三) 三・1129—五・1191) 大西 友太  
 左右田博士に答ふ……………(四) 一・345—四・384…西田幾多郎  
 十九世紀前半の仏蘭西画壇に於ける写実主義の変遷……………(四) 三・385—五・395) 小林大市郎  
 ……(四) 三・477—五・497) 小林大市郎  
 ……(六) 一・582—三・601) 小林大市郎  
 ……(六) 一・701—三・728) 小林大市郎  
 ……(九) 一・846—三・858) 小林大市郎  
 ……(十) 一・897—三・949) 小林大市郎

無限に就つて……………	(四)	三三・396—三三・419…	ダウバート、 下村貞太郎訳
戒律より見たる 仏教の道德思想……………	(五)	三六・460—三六・476 (六) 一・503—一六・520	松本文三郎
社会学の過程 互作用の過程……………	(六)	一六・521—一六・581…	白井 二尚
ベルグソンに於ける時間と永遠……………	(七)	三三・639—三三・673…	唐木 順三
カント第三批判序 文前稿について……………	(七)	三三・674—三三・699…	中井 正一
カント哲学に於ける神 の存在の証明根拠とし……………	(八)	三六・729—三六・755…	淡野安太郎
のテレオロギ― 先験倫理学の概念と其の一問題……………	(八)	三六・756—三六・798…	柳田謙十郎
「ち」の教育……………	(九)	三三・859—三三・880 (十) 一・978—一六・1002	高橋 俊乘
言語(未完)……………	(九)	三三・881—三三・889…	中井 正一
断簡三片……………	(九)	三六・880—三六・894…	伊藤 猷典
行為に於ける 純粹なるもの……………	(十)	三三・950—三三・977…	島 芳夫
精神分離症の心理学 的説明原理としての……………	(十一)	一・1009—三三・1034…	今村 新吉
社会的現象の 形式と素材……………	(十一)	三三・1035—三三・1068 (十二) 一・1099—三三・1128	尾高 朝雄
ビレボス篇とアリ ストテレスの形而 上学第一章第六節……………	(十一)	三六・1069—三六・1096 (十二) 三三・1190—一六・1205	ヘンツ、 シヤッタースン 高田三郎訳

第十三卷 昭和三年(一九二八)

竜樹哲学に於ける 物自性の問題……………	(一)	一・1—一〇・20	稲津 紀三
—中論観有無品の研究及び解釈— 史学に於ける 過去の認識……………	(一)	二二・21—三三・43…	田辺 元
悪の問題に就いて……………	(一)	三三・44—三三・89…	西谷 啓治
内 観 論……………	(一)	三〇・90—一〇・110	岩井勝二郎訳
先験生成的方 法について……………	(二)	一・115—三三・166…	赤松 元通
ペスタロッチ― の劳作教育論……………	(二)	三三・189—三三・226…	長田 新
海外通信……………	(二)	三三・227—三三・234…	伊藤 猷典
機械作用と身体 の個性(承前)……………	(三)	三三・287—三三・324…	大西 友太
方法概念の分析……………	(三)	三三・325—三三・368 (四) 一・927—三三・973	戸坂 潤
所謂認識対象界 の論理的構造……………	(四)	一・373—三三・432…	西田幾多郎
言語(承前)……………	(四)	三三・433—三三・457…	中井 正一
弁証法の論理(承前、未完) プラトンに於ける 自体と存在……………	(五)	一・463—三三・513 (十一) 一・1149—三三・1185	田辺 元
日本教育史上の手習……………	(五)	三三・514—三三・538…	高田 三郎
ヴントの個人心理学 に於ける基本概念……………	(五)	三三・539—三三・560 (七) 三三・750—三三・768 (十) 三三・1117—三三・1138	高橋 俊乘
アリストテレー ス倫理学の限界……………	(六)	三三・561—三三・572…	宇都宮 仙太郎
個性の問題と 反省的判断力……………	(六)	一・577—三三・617…	小田 清
	(六)	三三・618—三三・672…	高山 岩男

「心理学の危機」……………(六) 七三—一〇・686…大脇 義一	自己自身を見るもの の於てある場所……………(七) 一・689—二〇・718…西田幾多郎	と意識の場所……………(七) 一・689—二〇・718…西田幾多郎	ウィリアム・ジェイム……………(七) 三・719—六・749) 高坂 正顕	スの認識論と形而上学……………(八) 四・858—六・894) 高坂 正顕	認識の現象学的 説明に就いて……………(七) 六・769—一六・806…速水 敬二	マックス・シェーラーの計……………(七) 二六・807—三三・812…長田 新	空観の哲学、 存在より行へ……………(八) 一・815—三三・857…稲津 紀三	——電樹哲学の根本問題——	コーヘンに於ける 根源と非有……………(八) 六・995—一〇三・923) 由良 哲次	……………(九) 四・974—六・1005) 由良 哲次	……………(十) 六・1302—七・1337) 由良 哲次	解析論に於ける拒中 律排斥の論議に關する Otto Holder……………(九) 六・1006—一〇・1016…下村寅太郎	一〇の批評……………(九) 六・1017—一〇・1032…伊藤 猷典	海外通信……………(七) 一・1033—四・1116…西田幾多郎	睿智の世界……………(十) 三・1186—五・1213) 稲津 紀三	竜樹に於ける 物と相の問題……………(十) 一・1243—三・1279) 稲津 紀三	——中論觀六種の研究及解釈——	アリストテレース……………(十一) 六・1214—七・1238) 小島 威彦	……………(十二) 六・1280—七・1301) 小島 威彦	運動についで……………(十二) 六・1280—七・1301) 小島 威彦
----------------------------------	---	-----------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	--	---	---	---------------	--	------------------------------	-------------------------------	---	------------------------------------	----------------------------------	------------------------------------	---	-----------------	--	--------------------------------	--------------------------------------

第十四卷 昭和四年(一九二九)

ハンプルク大学より……………(一) 三三・134—三九・138…由良 哲次	アミエルの日記の一節……………(一) 一・157—五・161…深田 康算	張彦速の論画(未完)……………(二) 六・162—三三・189…伊勢専一郎	美意識の深底より 見たる光及び暗……………(二) 三三・190—六〇・216…植田 寿藏	意志、思惟及び直観……………(三) 六・217—一〇〇・256…島 芳夫	中世音楽観概説……………(四) 一〇一・257—一三三・280…須永 克己	文学の体系……………(四) 三三・281—三三・293) 須永 克己	……………(五) 七・424—七・439) 須永 克己	……………(五) 七・461—一〇・470) 須永 克己	……………(六) 九・725—一六・754) 須永 克己	發言型態と聴取型態 並にその芸術的展望……………(一) 二六・294—三三・309…中井 正一	日本語に於ける 存在の理解……………(二) 三三・310—三三・330) 和辻 哲郎	……………(三) 五・518—一六・538) 和辻 哲郎	梵文唯識二十論 和訳並びに註解……………(三) 一・343—一六・423…稲津 紀三	カントの第一ア ンチノミー第一……………(三) 六・440—一六・458…相原 信作	部と先驗的觀念論……………(三) 六・440—一六・458…相原 信作	「問題」に關する理論……………(四) 一・471—七・517…戸坂 潤	——主に立場の概念の批判として必要なる分析に限る——	實質的価値倫 理学の批判……………(四) 六・539—一六・553…柳田謙十郎	数の対象性……………(五) 一・559—六・614…三宅 剛一	二つの言葉の 解釈に就て……………(五) 五・615—一四・672…高坂 正顕	——実験的方法としての先驗的方法——	シェリングの哲学的 方法について(未完)……………(六) 一・677—四六・724) 赤松 元通	……………(七) 一・703—六・738) 赤松 元通	家族結合關係の基礎……………(六) 六・755—一五・791…田中 照	——現象学的試考——
---------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	---	--------------------------------------	---------------------------------------	------------------------------------	-----------------------------	------------------------------	------------------------------	--	---	------------------------------	---	---	-------------------------------------	-------------------------------------	----------------------------	--	---------------------------------	--	--------------------	---	-----------------------------	-------------------------------------	------------



アリストテレス形而上学に於ける本質の概念…(七) 三・739—六・766…後藤 孝弟  
 ソクラテス以前の哲学に於ける…(七) 三・767—四・786…田中 美知太郎  
 ヒュンヌの意味  
 —岩崎氏に答へ—

中論観三相品の…(六) 一・789—三・811 稲津 紀三  
 研究及び解釈…(十) 七・1092—二四・1130  
 (十一) 八・1418—二五・1451

反省的判断力の対象界…(六) 三・812—五・842…真下 信一  
 宗教体験の二様態…(六) 三・843—六・884…渡辺 泰三  
 辨証法の論理(承前)…(六) 一・889—五・942…田辺 元

世界観の問題(未完)…(六) 三・943—二六・1004…高山 岩男  
 ギュローの「時間観念の生成」…(六) 二・1005—三三・1013…マッセルグソン 服部英次郎訳

一般者の自己限定と自覚…(十) 一・1017—二五・1031…西田幾多郎

実数の領域と連続…(十) 一・1032—二五・1091 三宅 剛一  
 (十一) 一・1457—六・1523

プラトンのイデアに就いて…(十一) 一・1337—四・1377…杉 正俊

藤 樹 学…(十一) 四・1378—八・1417 加藤 仁平  
 —その発展とその意義—(十一) 六・1524—二二・1563

二つの区別と根源の事実…(十一) 二・1569—三〇・1586…沢 久敬  
 —メーヌ・ド・ペランの一考察—

第十五卷 昭和五年(一九三〇)

シエリングの哲学的な方法について(承前)…(一) 一・一—四・64…赤松 元通  
 スピノーザ哲学…(一) 六・65—一〇・108…島 芳夫

ニーコラーウス…(一) 一〇・109—二六・119 服部英次郎  
 クサーヌス…(三) 七・292—一〇・320  
 (五) 三・505—二二・540

原作と複製…(二) 一・125—三・145…植田 寿蔵

世界観の問題(承前)…(二) 三・146—六・207 高山 岩男  
 (三) 一・329—六・389  
 (九) 三・917—二二・962  
 (十) 五・1081—二一・1137  
 (十一) 一・1229—三〇・1278

意味の拡張方向並にその悲劇性…(二) 八・208—九・217…中井 正一

張彦遠の論画(承前)…(三) 一・221—四・263…伊勢専一郎  
 ロゴスの構造…(三) 四・264—二二・291…久保虎賀寿  
 デイユタイの倫理學思想…(四) 六・390—九・422…田中 照

西田先生の教を仰ぐ…(五) 一・429—四・468…田辺 元  
 Existenzialismus と Ideal-Realismus …(五) 四・469—二六・504…佐々木 勲

内容・作用・対象起信論に於ける認識実践の三想…(六) 一・547—四・592…下 程 勇吉  
 (六) 四・593—九・636…広瀬 文彦

ヘーゲルの「理解學」の理解…(六) 九・637—一〇・656…脇坂 光次

表現的自己の自己限定…(七) 一・689—三三・740 西田幾多郎  
 (七) 一・779—二二・795

中世絵画様式の展開に就ての一考察…(七) 三・741—二二・760…園 頼三  
 フォルケルト 教授の思出…(七) 九・761—一〇・770…長田 新

「体験及びその客観化」としての歴史哲学的真理概念の形式とその変遷…(八) 七・865—一〇・885…カッシーラー 由良哲次訳

芸術の自律性に就て……………(七) 一・891—二・916…植田 寿蔵  
 カントの物自……………(七) 三・963—三・1024…高橋 道生  
 ナトルプに於ける「主観性」の問題に就て……………(十) 一・1027—二・1080…錦田 義富  
 義務闘争の問題……………(十一) 一・1141—三・1173 田中 照  
 五・1279—三・1301  
 機能概念の美学への寄与……………(十二) 三・1174—六・1219…中井 正一  
 (十一) 二・1220—七・1227 ジムメル  
 現代文化の争闘……………(十二) 四・1302—六・1321 伊達 四郎 訳

第十六卷 昭和六年(一九三二)

プラトンに於ける思慕・想起及對話法の教育的意義並にその相互關係……………(一) 一・1—五・55…石山 脩平  
 人間の相の下に……………(一) 五・56—三・102…小田 清  
 —カント倫理学の研究—  
 全体性と感情……………(一) 四・101—三・136…佐藤 幸治  
 哲学的教育学と經驗的教育学との止揚点につて……………(二) 一・141—二・164…伊藤 猷典  
 「純粹理性批判」の存在論的解釈につて……………(二) 三・165—五・192…脇坂 光次  
 —構想力の分析に関する一つの準備的考察—  
 直観空間の先驗的構造(ベックフ)……………(二) 五・193—六・218…下村寅太郎  
 歴史哲学の地位その(一)……………(三) 一・223—三・252…船山 信一  
 (前言的なるもの)  
 弁証法に於けるシェライエルマツヘル……………(三) 三・253—五・294…渡辺 泰三

海外通信……………(三) 三・295—六・300…白井 二尚  
 カントに於ける「人格」と「人間性」(未完)……………(四) 一・307—三・332…和辻 哲郎  
 ヘーゲルの歴史哲学……………(四) 三・333—六・371 島 芳夫  
 一〇五・1157—八五・1205  
 義務闘争の問題に対する一補遺……………(四) 六・372—七・398…田中 照  
 —事象存否の問題につて—  
 批判主義に於ける自由の問題(未完)……………(四) 七・399—三・428 中林嘉太郎  
 (六) 六・676—一〇六・721  
 homo sapiens……………(四) 三・429—一〇六・456 西田 積文  
 の人間学  
 フイヒテ哲学を流す……………(四) 三・457—一〇六・500 柳田謙十郎  
 マックス・ウェーバー……………(五) 一・509—五・566…重松 俊明  
 —理想型論を中心として—  
 宗教の伝統とその他の問題……………(五) 五・567—一〇六・598…渡辺 泰三  
 カール・ファイリップ……………(五) 六・599—六・606 藤田 貞次  
 モーリッツの美学……………(七) 六・792—八五・813  
 (九) 七・984—一〇一・1028  
 カントに於ける Kritik と Doktrin の記録……………(六) 一・613—三・634…中井 正一  
 ついて

ヘーゲルの論理学に於ける存在・本質・概念の聯関を中心として……………(六) 三・635—六・675 船山 信一  
 (七) 七・893—一〇七・925  
 (九) 七・957—一〇六・983  
 永遠の今の自己限定……………(七) 一・729—三・791…西田幾多郎  
 哲学の発端(未完)……………(八) 一・819—三・853…久保虎賀寿  
 熊沢蕃山の教育思想……………(八) 三・854—七・892 後藤 三郎  
 (九) 三・1104—八五・1117  
 繫辭的存在……………(九) 一・928—三・956…沢瀨 久敬  
 —ジュール・ラシャリエの繫辭的存在の一解釈—

「一般」と云ふ言葉……………(十) 1・1033—四・1079 高坂 正顕  
 の意味についで……………(十一) 1・1121—六・1156  
 プラトン是如何に……………(七) 四・1080—五・1103…後藤 孝弟  
 哲学し始めたか……………(十一) 四・1396—六・1436…船山 信一  
 歴史的認識……………(十一) 四・1396—六・1436…船山 信一  
 本質観照・絶対知……………(十一) 四・1396—六・1436…船山 信一  
 ヘーゲルに於けるイデアと弁証法(未完)……………(十一) 八・1437—二五・1467…脇坂 光次

第十七卷 昭和七年(一九三二)

カントに於ける「人格」<sup>〔人間性〕</sup>(承前)……………(一) 1・1—三・32…和辻 哲郎  
 プラトンのドクサに就いて……………(一) 三・33—三・72…杉 正俊  
 ライブニッツに於ける個性の問題……………(一) 三・73—三・112 由良 哲次  
 (二) 五・691—六・996  
 自愛と他愛及び弁証法……………(二) 1・123—二・150 西田幾多郎  
 (三) 1・209—二・229  
 陶冶の自発性(未完)……………(二) 二・151—六・190…前田 博  
 アウグスティヌスの形而上学の将来……………(二) 六・191—八・206 ザルソンの  
 (三) 七・553—九・573 長沢信壽訳  
 目的論的、表現的、弁証法的(承前・未完)……………(三) 三・230—七・285…高山 岩男  
 感情の深さの次元……………(三) 六・286—四・333…佐藤 幸治  
 美術史は作風……………(四) 1・341—三・377…植田 壽藏

哲学の発端(承前)……………(四) 六・378—二・421…久保虎賀寿  
 バビロニヤ人……………(四) 八・422—六・438…中原与茂九郎  
 のロゴス観……………(四) 八・422—六・438…中原与茂九郎  
 (ハクレイトスのロゴス観の原型—)

ヘーゲルに於けるイデアと弁証法(承前・未完)……………(四) 九・439—三・464…脇坂 光次  
 ケルシェンシュタインの逝去……………(四) 三・465—三・476…秋葉 貞二  
 カント就職論文考……………(五) 1・481—三・493…天野 貞祐  
 数理哲学の一方針……………(五) 四・494—三・552…下村寅太郎  
 自覚 総合 自然……………(六) 1・581—三・617 下程 勇吉  
 (二) 七・797—五・846  
 (九) 1・907—三・923  
 我、我一次……………(六) 六・618—二・671…重松 俊明  
 社会(未完)……………(六) 六・618—二・671…重松 俊明  
 —テオドール・リットを中心として—

フェリックス・リットを中心として……………(六) 六・672—六・679…岩井勝二郎  
 「体験全態と心的構造」……………(七) 1・683—三・744…伊達 四郎  
 意識と存在(未完)……………(七) 三・745—六・767 小林嘉太郎  
 批判主義に於ける自由の問題(承前)……………(七) 五・847—六・878  
 リチャーズの文芸批評論……………(七) 六・768—一〇・788…アランデル・  
 (七) 六・768—一〇・788…アランデル・デル・レー  
 李 敬 河 訳  
 直接的にあるもの……………(八) 二・879—一〇・904…船山 信一  
 获生徂徠の教育基礎論……………(八) 六・924—五・960…高橋 俊乗  
 シェリングの積極哲学……………(九) 1・999—三・1068 赤松 元通  
 (十) 1・1273—五・1327  
 意志自由問題……………(十) 三・1069—一〇・1104…高橋 敬視  
 の一つの解決……………(十) 三・1069—一〇・1104…高橋 敬視  
 世界観説論……………(十) 一〇・1105—一三・1136…船山 信一  
 図式「時間」から……………(十一) 1・1143—七・1220…田辺 元  
 図式「世界」から……………(十一) 1・1143—七・1220…田辺 元

高橋教授著「全体  
の立場」に因みて……………(十一) 六・1221—10六・1251…山内 得立  
拙著批評に答ふ……………(十一) 五・1328—八六・1361…石田 仁  
ディルタイの世界観論……………(十一) 六・1362—110・1382…前田 博  
陶冶の共同体……………(十一) 六・1362—110・1382…前田 博

第十八巻 昭和八年(一九三三)

関係概念と人格性……………(一) 一・1—六・61…沢瀧 久敬  
—アムランの哲学の方法に就いて—  
目的論的、表現的……………(一) 六・62—六六・96  
弁証法的(承前)……………(一) 一七・141—二二・151…高山 岩男  
……………(四) 四六・374—八〇・408  
スピノーザに於けるア……………(一) 九・97—12・119…篁 実  
ントロポロジーの要求……………(一) 二六・152—五・175  
形式社会学に対する……………(一) 一・125—1六・140…岩崎 呉郎  
一つの批評について……………(一) 一・125—1六・140…岩崎 呉郎  
—価値の形式と価値の内容—  
アリストテレス形而上……………(一) 五・176—九〇・214…藤井 義夫  
学の主題とその構成……………(一) 二五・591—101・643  
シェリングの積極哲……………(三) 一・217—五・257…赤松 元通  
学についで(承前)……………(三) 一・217—五・257…赤松 元通  
ケルシェンシュタイン……………(三) 三・268—七・313…秋葉 貞二  
の初期教育論に於ける……………(三) 三・268—七・313…秋葉 貞二  
る公民教育、勞作学校、……………(三) 三・268—七・313…秋葉 貞二  
性格教育の概念……………(三) 三・268—七・313…秋葉 貞二  
芸術解釈学の二三……………(三) 六・314—10二・323…徳永 郁介  
の問題に就いて……………(三) 六・314—10二・323…徳永 郁介  
十八世紀における……………(四) 一・329—四四・373…井島 勉  
美の觀念性的の問題……………(四) 一・329—四四・373…井島 勉  
倫理学的存在論的課題……………(四) 一・409—11二・445…島 芳夫  
新物理学的自然像に於……………(五) 一・451—五五・475…下村寅太郎  
ける実証主義(試論)……………(五) 一・451—五五・475…下村寅太郎

我、我—汝、……………(五) 五・476—11三・513  
社会(承前)……………(六) 一・542—四四・530…重松 俊明  
—ヘーゲルに於けるイ……………(五) 六・514—11六・536…脇坂 光次  
デアと弁証法(承前)……………(五) 六・514—11六・536…脇坂 光次  
シェリングの……………(七) 一・645—三三・679…勝田 守一  
歴史哲学考……………(七) 一・645—三三・679…勝田 守一  
アリストテレスに於……………(七) 六・680—110・764…藤井 義夫  
ける真理概念の發展……………(七) 六・680—110・764…藤井 義夫  
アリストテレス……………(八) 一・771—五五・826…西谷 啓治  
の感性論……………(八) 一・771—五五・826…西谷 啓治  
—アリストテレスに於ける哲学の概念—

—アリストテレスに於ける哲学の概念—  
国家と教会(問題の成立)……………(八) 五・827—10五・875…ヴェーケラー  
—近代神学の理解のための教理史的研究—  
波辺泰三訳  
カントに於ける実践……………(九) 一・879—四六・942…野田 又夫  
現代に於ける人間中……………(九) 六・943—101・980…山谷 省吾  
心主義とその対策……………(九) 六・943—101・980…山谷 省吾  
—石田憲次氏の「基督教的文学観」を読む—  
知識社会学の課題……………(十) 一・983—四四・1025…樺 俊雄  
意識と存在(承前)……………(十) 四・1026—11三・1055…伊達 四郎  
アウグステイヌス……………(十) 一・1093—六六・1160…松村 克己  
に於ける悪の問題……………(十) 一・1093—六六・1160…松村 克己  
ディルタイの文芸……………(十一) 六・1161—101・1193…徳永 郁介  
手法論に就いて……………(十一) 六・1161—101・1193…徳永 郁介  
非人称判断に就いて……………(十一) 一・1203—三三・1234…下程 勇吉  
デュルケムに於ける……………(十一) 三・1235—六六・1268…田中 熙  
る道徳社会学と社……………(十一) 三・1235—六六・1268…田中 熙  
会的道徳論……………(十一) 三・1235—六六・1268…田中 熙  
種々の時間の……………(十二) 六・1269—六六・1291…上田 大助  
關係に就いて……………(十二) 六・1269—六六・1291…上田 大助

第十九卷 昭和九年（一九三四）

近代に於ける自然の論理……………(一) 一・一八・85…佐藤 省三

ギリヤ数学の古典的理論に於ける直観と思维……………(一) 六・86—104…シムテンツェル 下村寅太郎訳

愛……………(二) 一・121—三・132…波多野精一

アリストテレスの時間論……………(二) 三・153—五・173…熊野達六郎

時代の背景とブラトンのイデア論……………(二) 五・174—六・208…鹿野 治助

アナロギア思想の位置……………(三) 一・227—三・264…山内 得立

神学者としてのパウロ……………(三) 五・265—六・288…山谷 省吾  
—パウロ神学の意義について—

アリストテレス……………(三) 六・289—八・314…バーネット 藤井義夫訳

フイヒテ哲学の根本原理に関する一つの考察……………(四) 一・327—三・353…木村 素衛

フイヒテの絶对我について……………(四) 六・354—四・368…柳田謙十郎

社会的道德の理論(未完)……………(五) 一・423—三・450…島 芳夫

美的なるものに於ける芸術の位置……………(五) 三・461—五・493…井島 勉  
—カント及び独逸理想主義美学の一考察—

芸術に於ける「児童的なもの」……………(五) 三・494—六・514…外山卯三郎  
—特に児童の絵画について—

弁証法的な一般者……………(六) 一・521—四・596…西田幾多郎

としての世界……………(六) 一・639—三・694…  
(七) 一・769—四・813…

実践的時間の超越……………(六) 五・570—六・601…谷山 隆夫

陶治の自発性(未完)……………(七) 六・918—八・970…  
(七) 六・1375—七・1402…  
—有機的成長と可塑性—

普遍に就いて……………(七) 五・695—六・737…島津 勤  
—カントとハーゲルを中心に—

人間の本質と人間学……………(七) 一〇〇・738—一〇一・756…竹下 直之

神と人間の問題(未完)……………(八) 六・848—七・871…  
(八) 六・814—七・847…片山 正直

問題の人ソクラテス……………(八) 一〇四・872—一〇三・880…ロベス 服部英次郎訳

芸術史の立場と文化史の立場……………(九) 一・883—三・917…植田 寿藏  
(九) 一・1031—三・1069…

史家の課題について……………(九) 六・971—四・996…  
—ヴァルヘルム・フォン・ホルト 泉井久之助訳—

ディルタイと現代の独逸哲学……………(九) 三・1013—四・1024…  
—シュテンツェル 服部英次郎訳—

カントに於ける芸術の問題……………(十) 四〇・1070—六・1128…中島栄次郎

社会存在の論理(未完)……………(十) 一・1179—三・1240…田辺 元  
(十) 一・1311—三・1374…  
—哲学的社会学試論—

アリストテレスの認識論的思想の発展(未完)……………(十一) 三・1241—六・1294…藤井 義夫  
—「アリストテレスの認識論」研究への一寄与—

アリストテレスの友愛の哲学……………(十一) 二・1295—三・1308…  
—エルンスト・ホフマン 服部英次郎訳—

現象学と批判哲学……………(十二) 六・1403—一六・1428…フレイ 下程 勇吉訳

第二十卷 昭和十年（一九三五）

社会存在の論理(承前)……(一) 一・ 1—3・ 67…田辺 元

—哲學的社會學試論—

アリストテレスの構想論……(一) 六六—125…西谷 啓治

—アリストテレスに於ける哲學の概念—

歴史的時間……(二) 一・ 133—179…權 俊雄

神と人間の問題(承前)……(二) 四・ 180—234…片山 正直

時間と実在……(二) 10三・ 235—285…上田 大助

マイスター……(二) 四・ 286—298…エーリヒ・

ニツクハルト……(二) 四・ 298—309…服部英次郎訳

歴史的認識……(二) 一・ 309—339…高坂 正顕

社会的道德の理論(承前)……(二) 三・ 340—386…島 芳夫

歴史に於ける自由と必然……(二) 七・ 387—412…山崎 秀爾

—ヘーゲルを中心として—

デイルタイとヘーゲル……(三) 10三・ 413—421…シホチンツェル

知的直観と弁証法……(四) 一・ 427—478…赤松 元通

—シェリングの考察—

プラトーンに於ける知識への道……(五) 六・ 562—606…長沢 信寿

—「デハメテオニス」研究—

最近に於ける精密自然科学の基礎の変革……(五) 六・ 597—612…ハイゼンベルク

トマスによる存在の種々の意味……(五) 七・ 613—629…原 光雄訳

—フランツ・メリアー

積極的事実について……(六) 一・ 633—679…服部英次郎訳

集合論の所謂「矛盾」に就て……(六) 六・ 722—753…赤松 元通

—循環論法の吟味—

近藤 洋逸

歴史的真理と歴史的认识の方法……(七) 六・ 792—831…由良 哲次

—アルフレート・フレイムラー

ウイヘルム・フォン・フンボルト……(七) 六・ 863—869…服部英次郎訳

宗教芸術の問題……(八) 一・ 877—899…上野 照夫

—宗教芸術に於ける宗教的なるもの—

信仰の論理……(八) 二・ 900—946…片山 正直

—神と人間の問題—

古代及び中世の西洋美術に対する東方の影響に就て……(八) 七・ 947—968…小林太市郎

電子と陽電子の理論……(八) 六・ 969—1007…デイラック

—下村寅太郎訳

仏教涅槃の特異性……(九) 一・ 983—1008…羽溪 了諦

高次の方向量の論理……(九) 七・ 1009—1055…佐藤 省三

—ニコライ・ハルトマン

プラトン哲学に於けるアプリオリズムの問題……(九) 六・ 1080—1099…服部英次郎訳

種の論理と世界図式……(十) 一・ 1105—1159…田辺 元

—絶対媒介の哲學への途—

印度に於ける運華論研究の方法……(十) 六・ 1160—1215…本田 義英

—特に法華經を願慮して—

数学的方法の構成に及ぼせるプラトーンの影響……(十一) 10四・ 1322—1342…ソルムゼン

—長沢信壽訳

第二十一卷 昭和十一年(一九三六)

感情の煩惱的性格……(一) 一・ 1—35…佐藤 幸治

知覚形而上学の問題……(一) 六・ 36—70…土井虎賀寿

デカルトの形而上学……………	(一) 七・71—101・101	野田 又夫
地域の社会圏として……………	(二) 四・149—八・192	
ての故郷と郷土……………	(三) 一・105—四・148	白井 二尚
浄土教思想の中……………	(四) 一・347—六・404	
観哲學的解明……………	(五) 一・471—六・532	永静
トーマス・アクキナス……………	(二) 六・193—二二・231	向田 永静
世界観の社会学……………	(三) 一・245—三・269	服部 英次郎
パラドックス再論……………	(六) 三・612—五・639	権 俊雄
——レーヴェンハイム・スコレムの背理を中心として——	(七) 三・800—九・859	
自証の真実態への途……………	(三) 三・270—五・302	近藤 洋逸
アリストテレスに於ける認識……………	(三) 五・303—九・343	山本 清幸
——「アリストテレスの認識論」研究への一寄与——	(四) 五・405—八・434	藤井 義夫
シェリングの芸術哲学……………	(四) 六・435—二五・461	松下 武雄
正理学派に於ける量論……………	(五) 六・533—一〇・576	松尾 義海
性と血……………	(六) 一・581—三・611	高山 岩男
——「原始的人間及び原始的社会の表在的要素」——	(七) 一・671—四・716	
超数学の本質に就て……………	(十一) 一〇五・1225—一三三・1277	
存在の判断的性格と判断の存在的性格……………	(六) 四・717—五・734	三田 博雄
——知覚論序論——	(七) 四・735—六・757	土井虎賀寿
物心の関係に就て……………	(八) 四・860—六・892	上田 大助
「理念型」構成の論理……………	(八) 一・767—三・799	安田 行雄

知覚論 第一部……………	(六) 一・897—二・923	土井虎賀寿
ゲンタルト心理学(未完)		
「神の国」の歴史観……………	(七) 二・924—六・962	松村 克己
歴史に於ける弁証的と産出的……………	(七) 六・963—九・993	由良 哲次
論理の社会存在論的構造……………	(七) 四・1042—九・1091	
多価命題計算学に就て……………	(十一) 四・1327—九・1377	田辺 元
歴史の基体……………	(十一) 一・999—四・1041	
宗教・歴史・文化……………	(十一) 一・1121—四・1166	近藤 洋逸
知覚論 第一部……………	(十一) 一・1281—四・1326	
ゲンタルト心理学(承前)	(十一) 九四・1092—一八・1116	ジヤン・ルカ
空義より三性説へ……………	(十一) 一〇七・1167—一〇七・1224	高坂 正顕
芸術的表現の意義……………	(一) 一・1—二・27	西谷 啓治
推古彫刻史序説……………	(一) 六・61—九・96	長尾 雅人
量子力学に於ける観測に就て……………	(一) 一・101—四・144	河本 敦夫
実践と対象認識……………	(一) 四・145—六・167	蓮実 重康
——認識の世界に於ての認識の立場——	(二) 六・168—八・188	アインシュタイン 其他
感情の存在論的構造……………	(二) 六・168—八・188	武谷 三男
命題論理学の歴史……………	(二) 一・197—四・236	
	(三) 一・197—四・236	西田幾多郎
	(三) 一・295—三・317	
	(三) 一・393—四・437	
	(三) 四・237—七・267	島 芳夫
	(四) 五・345—七・367	ジヤン・ルカ
	(三) 七・268—九・290	エウイング
		三田 博雄

第二十二卷 昭和十二年(一九三七)

カントの先天総合  
判断の最高原則に  
ついて(未完) (四) 318—319 友太  
(六) 312—313 535  
(八) 775—106 800

十字架と蓄薇……………(四) 368—369 友太  
——この解釈の試み——  
平下欣一訳

カントの歴史観……………(五) 337—338 友太  
プラトーンに於ける数 (五) 337—338 487 友太  
学と形相論との関係 (十) 337—338 487 友太  
長沢信壽訳

美の深き……………(六) 491—511 植田  
(七) 695—731 823 858 植田  
(九) 823—858 858 植田  
(十) 909—939 939 植田  
寿蔵

宗教的自覚(未完)……………(六) 536—554 片山  
(九) 889—890 890 片山  
正直

自然数論の無  
矛盾性証明……………(六) 555—573 近藤  
(七) 664—687 687 近藤  
洋逸

——G・ゲンツェンの業績——  
マクス・ベンエー  
ラーの政策論と……………(七) 581—607 田中  
熙

アリストテレスに於  
ける認識論的思想の  
発展(承前・未完) (七) 608—663 藤井  
(十) 1166—1221 1221 義夫

——「アリストテレスの認識論」研究への一寄与——  
原始インド・アール  
ヤ人の思潮とアタル……………(八) 732—774 岩本  
裕

ヴァ・ヴェエーダ  
——アタルヴァ・ヴェエーダ研究序説——  
量子論の諸問題……………(八) 107—107 801—807 湯川  
秀樹

原子論に於ける因果律……………(八) 808—819 武谷三男  
——物理的实在の量子力学的記述は完全と考へられ得るか——  
物理的世界内に於ける  
個性性と交互作用……………(九) 891—906 真方敬道  
——ロイ

種の論理の意  
味を明にす……………(十) 940—981 田辺  
(十一) 1015—1050 1050 元  
(十二) 1139—1165 1165

第九回万国哲  
学会の印象……………(十) 1005—1009 沢渡  
久敬

アリストテレスに  
於けるousiaとし  
てのpsyche……………(十一) 1051—1085 高橋  
享

人格の問題……………(十一) 1086—1122 横山  
巖

——ヘルダグレンに於ける二つの自我に就て——  
相対性理論をめぐる認  
識論的諸問題(未完) (十) 1123—1134 近藤  
(十一) 1222—1240 1240 洋逸

第二十三卷 昭和十三年(一九三八)

デカルトに於ける延長……………(一) 1—51 三宅  
剛一

主体の哲学と  
倫理の問題……………(一) 52—86 柳田謙十郎  
(二) 180—199 199  
(三) 224—247 247

相対性理論をめぐる認  
識論的諸問題(承前) (一) 87—110 110 近藤  
(二) 248—276 276 洋逸  
(三) 347—378 378  
(四) 669—689 689

宗教的自覚(承前)……………(二) 115—149 片山  
(四) 279—324 324 正直

現実存在の根  
拠としての空……………(二) 150—179 向田  
永静

行為と論理……………(三) 203—223 島  
(五) 383—407 407 芳夫  
(七) 599—624 624  
(十) 921—962 962  
(十一) 1081—1120 1120

歴史と自由(未完)……………(四) 325—346 竹下  
直之

社会哲学への試図……………(五) 408—443 淡野安太郎



陽明思想の論……………( 五三) 444—106・490…保田 清  
 理学的考察……………( 六) 1・493—三三・526…大西 友太  
 カントの先天総合  
 判断の最高原則に  
 ついて(承前・未完)

観ることに於ける言語……………( 六) 三三・527—六六・559…河本 敦夫  
 真智と解脱……………( 六) 六六・560—九六・591…松尾 義海  
 —Nyayastara-bhasyaを中心として—

批評の芸術史の意味……………( 六) 三三・625—六〇・668  
 ( 七) 三三・723—六〇・772) 井島 勉  
 —希臘美術を中心として観たる—

概念と自由……………( 六) 1・693—三〇・722…平下 欣一  
 —「アリストテレスの内在的解明—  
 有無の關係に就いて……………( 六) 六・773—103・799…上田 大助

形式論理の現実……………( 六) 1・803—三三・825) 高山 岩男  
 的根拠に就いて……………( 六) 1・989—三三・1013)

アリストテレスに  
 於ける認識論的思  
 想の発展(承前)……………( 六) 三三・826—六六・870) 藤井 義夫  
 —「アリストテレスの認識論」研究への一寄与—

二種の「テアエ  
 テーシス」……………( 六) 六六・871—七六・880…長沢 信寿

高山岩男氏の「哲学  
 の人間学」について……………( 六) 六六・881—七六・889…柳田謙十郎

永平正法眼蔵の哲学……………( 六) 1・893—一六・920…田辺 元

数学の形而上学的系  
 譜について(一)……………( 六) 七・963—一六・986…下村寅太郎

プロトレプテ  
 コス(未完)……………( 六) 三三・1014—五二・1039…田中美知太郎

実践的の意味(未完)……………( 六) 三三・1040—六二・1077…由良 哲次

マクス・シェラーの  
 政策論と政治論(承前)……………( 六) 四四・1121—六五・1165…田中 照

第二十四卷 昭和十四年(一九三九)

普通学として……………( 一) 1・1—三三・23…下村寅太郎  
 の数学の成立  
 —数学の形而上学的系譜の序論(一)—

世界像のトポ  
 ロギイ試論……………( 一) 三三・24—六六・38…土井虎賀寿

疑へないもの……………( 一) 六六・39—九六・97…山田 次郎  
 驚きの情と偶然性……………( 二) 1・99—三〇・128…九鬼 周造

カントの先天総合  
 判断の最高原則に  
 ついて(承前)……………( 二) 三三・129—六六・159…大西 友太

実践的の意味(承前)……………( 二) 六六・160—九六・197…由良 哲次

ある庭石の視覚構造……………( 三) 1・203—三三・232) 植田 寿藏  
 ( 四) 1・307—三三・340)

表象の強度に就いて……………( 三) 三三・233—六六・270…大脇 義一  
 プロトレプテ……………( 三) 六六・271—101・303) 田中美知太郎  
 コス(承前)……………( 七) 三三・988—五二・983)

神と世界……………( 四) 三三・341—六六・382 松村 克己  
 —基督教神学序説への一試論—

アリストテレス……………( 四) 七六・383—107・423) アンペル、ケルグソン  
 の場所論……………( 五) 六六・499—107・537) 五十嵐達六郎訳

ライプニッツに於  
 ける個体と世界……………( 五) 1・431—三三・472) 三宅 剛一  
 ( 六) 五・535—一六・637)

孟子と荀子とに於  
 ける性説に就いて……………( 五) 三三・473—六六・498 保田 清  
 日常性について……………( 六) 1・539—三三・570…黄 金穂

歴史と自由(承前)……………( 六) 三三・571—六六・594…竹下 直之  
 —現象学的試論—

柳田謙十郎氏の「弁証法  
 の世界の倫理」を読む……………( 六) 100・638—109・645…島 芳夫

第二十五卷 昭和十五年(一九四〇)

歴史における理念……………	(七)	1・647—3・667	樺	俊雄
近世自然法思想の由来とその運命……………	(七)	3・668—6・732	堀	喜望
禅と実有的有及無……………	(七)	6・733—10・746	上田	大助
生活と教育……………	(七)	3・773—5・802	篠原	陽二
—「ベストローラー」への回廊—				
数学「基礎論」……………	(七)	5・803—10・830	近藤	洋逸
—その基本問題と意義—	(七)	5・984—7・993		
—その基本問題と意義—	(七)	5・1147—7・1169		
先験論理の現実的根拠に就いて(未完)	(九)	1・833—3・864	高山	岩男
倫理と倫理学と倫理学者—実存史的倫理学への一序論	(九)	3・865—5・897	田中	照
原始仏教に於ける「行」の概念……………	(九)	6・898—9・925	谷山	隆夫
国家的存在の論理……………	(十)	1・927—3・957		
	(十)	1・997—3・1018	田辺	元
	(十)	1・1091—3・1120		
三願転入に就いて(未完)	(十)	3・1019—5・1068	武内	義範
科学の価値と本質……………	(十)	7・1069—10・1079	ヤス	パリス
			中川	秀恭
行為の表現的性格……………	(十)	6・1079—8・1084	柳田	謙十郎
—木村泰爾著「表現愛」に就いて—				
高坂正顕著「カント」……………	(十)	6・1085—8・1089	谷山	隆夫
印度論理学派に対する瑜伽説の影響……………	(十)	3・1121—5・1146	松尾	義海
ヘーリング著「イゲル」第二巻……………	(十)	6・1170—8・1174	グロ	クナ
			平下	欣一
片山正直著「倫理学新講」を読む……………	(十)	6・1175—8・1178	川村	喜久治

文化の本質と教育の本質……………	(一)	1・89—3・106	木村	素衛
有と知……………	(一)	3・23—5・61		
	(一)	5・124—7・170		
	(一)	5・421—7・449	山田	次郎
	(一)	5・629—7・655		
	(一)	5・809—7・819		
	(一)	5・894—7・908		
離接の全体……………	(一)	3・62—5・72	下程	勇吉
—九鬼教授著「人間と実存」後—				
岡崎義恵著「日本文芸の様式」……………	(一)	3・73—5・79	河本	敦夫
高坂正顕著「カント解釈の問題」……………	(一)	6・80—8・85	淡野	安太郎
禅の構造と鎌倉武士……………	(一)	6・107—8・123	坂田	吉雄
数学論序説……………	(一)	6・171—8・180	近藤	洋逸
—梵文書き風に—				
稲富氏の著書「無と直観」……………	(一)	6・181—8・186	鹿野	治助
中観瑜伽論譯の歴史の意義に就いて……………	(一)	1・189—3・221	山口	益
プロメテウス……………	(一)	5・222—7・265		
	(一)	5・322—7・357	長尾	久敬
自我、他我、人間界の認識……………	(一)	6・266—8・285	岡	不二太郎
—その経験的基礎の討究—				
瞬間と反復……………	(一)	1・287—3・321	谷山	隆夫
先験論理の現実的根拠に就いて(承前)	(一)	1・379—3・420	高山	岩男
マイネッケ「歴史的感覺と歴史の意味」……………	(一)	7・450—8・459	堀	喜望

無の本質の実証的研究…(五) 二・460—六・467…武内 義範  
 —山口論助著空と弁証法を説く—

アリストテレスに於ける人間存在と道徳的行為…(六) 一・471—四・512 島 芳夫  
 (七) 三・846—七・893

三顧転入に就いて(承前、未志)…(六) 四・513—六・536 武内 義範  
 (七) 三・1042—八・1068

行為的基体…(六) 一・537—六・566 柳田謙十郎  
 (七) 三・604—五・628  
 (八) 四・705—六・729

悲劇と人間存在…(七) 一・571—三・603 大島 康正  
 (八) 一・665—四・704

舞台理作者「表」と論理…(七) 六・656—七・663—谷山 隆夫  
 (八) 六・656—七・663—片山 正直

正しき宗教哲学への道…(六) 六・730—七・742…岩男 博  
 —波多野先生著宗教哲学序論を説く—

人種、民族、国民と歴史的世界…(六) 一・745—三・781…前田 博  
 (七) 一・782—四・808

教育の主体…(七) 一・823—三・845 田辺 元  
 (八) 一・909—三・930  
 (九) 一・985—三・1016

永遠・歴史・行為自由に就いて…(七) 三・931—四・952…岸畑 殖夫  
 (八) 四・953—七・982…グラーフェ、オン・デュフクハイム

世界の秩序形式と人間存在形式…(七) 一・1017—三・1041…大西 友太  
 —観想的世界体論—

シェリングの歴史的自由とハイデッガー、ヤスパーズの歴史的人間…(七) 一・1017—三・1041…大西 友太

第二十六卷 昭和十六年(一九四一)

アリストテレスに於ける可能概念の諸相…(一) 一・1—四・41 安藤 孝行  
 (二) 三・215—六・251

三顧転入に就いて(承前)…(一) 四・42—六・60…武内 義範

教育的現実…(一) 六・61—九・91 森 昭  
 (二) 六・156—九・183  
 (三) 六・252—九・291  
 (四) 三・1097—六・1134  
 —教育哲学基礎論—

空間の数学と形而上学…(一) 一・93—三・121…下村寅太郎  
 (二) 三・122—五・155…高橋 敬視

意識に主体があるか…(一) 一・185—三・214 植田 寿蔵  
 (二) 一・293—三・326  
 (三) 一・293—三・326

機智・機鋒及び洒脱の視覚構造…(四) 三・327—五・351…沢瀉 久敬  
 (五) 三・327—五・351  
 —フランス哲学史上に於けるアルブランシュの位置に就いて—

単純なる道…(四) 六・352—八・378 井狩 克  
 (五) 六・413—八・432  
 —共通感覚(アリストテレス)…(五) 一・379—三・412…大友 芳雄  
 —カントに於ける宗教の本質…(五) 一・379—三・412…大友 芳雄  
 —道徳との構造聯繫を中心として—

ヘーゲルの宗教哲学…(五) 五・433—七・472 高橋 亘  
 (六) 五・656—七・674  
 (七) 五・735—七・759

人間と経済…(六) 一・475—三・506 島 芳夫  
 (七) 一・763—三・786  
 (八) 一・904—三・931

親鸞他力説の理解…(六) 三・507—六・550…平下 欣一  
 (七) 三・507—六・550…内田 文雄  
 (八) 三・551—六・576

現象学に於ける社会の把握…(七) 一・581—三・636…大島 康正  
 —想起・反復・期待…(七) 一・581—三・636…大島 康正  
 —主体的人間の現象学—

物と心…(七) 七・627—九・655 山田 次郎  
 (八) 七・717—九・734  
 (九) 七・840—九・855  
 (十) 七・932—九・946  
 (十一) 七・997—九・1015

ヘーゲル論理学に於ける客観的判断の問題…(六) 一・677—四・716…安 浩相

現実の形而上性……………(六) 787—794・839  
と形而上性……………(十一) 1・947—15・961 土井虎賀寿

世界知の限界と自由……………(十一) 1・857—11・877…ヤスバース  
野田又共訳

実存概念の発展……………(十一) 113・878—14・903 田辺 元

概念—概念に於ける……………(十一) 116・962—15・996…飯倉亀太郎  
言語の媒介(未完)

—論理研究のための一つの試み—

「無と有との対論」……………(十一) 110・1016—16・1042…長尾 雅人  
を讀みて

プラトーン哲学

資料論(未完)……………(十一) 119・1063—15・1096…三井 浩

—プラトーンに於ける哲學的發展序説—

## 第二十七卷 昭和十七年(一九四二)

歴史的世界の構造……………(二) 1・1—17・27 高山 岩男

アリストテレ……………(一) 113・28—116・62…五十嵐 達六郎  
スの無限論

概念—概念に於ける……………(一) 113・63—116・83 飯倉亀太郎

言語の媒介(承前)……………(一) 113・122—116・140

—論理研究のための一つの試み—

ヘーゲルと國家……………(二) 113・147—116・169 前田 博

—「世界觀と國家觀」に於ける—

福首の三一論の構造……………(三) 1・181—113・212…北森 嘉藏

獨創性に就いて……………(三) 113・213—116・234…沢瀉 久敬

高山岩男氏「文化類型學」讀後……………(三) 116・268—119・271…下程 勇吉

都市國家の成立……………(四) 1・273—113・304 山内 得立

「良心と悪」……………(四) 113・305—116・338…武藤 一雄

物性の論理……………(四) 113・339—116・354…矢内原伊作  
—ヘーゲルの精神現象學に於ける絶対知の成立について—

山水畫に於ける庭園性……………(五) 1・357—110・396…植田 寿藏  
—及びその周明—

プラトーン哲学……………(五) 111・397—115・431 三井 浩

資料論(承前)……………(七) 110・422—113・525  
117・629—113・632

—プラトーンに於ける哲學的發展序説—

印度論理學に於ける……………(五) 116・432—110・459…松尾 義海  
三種の比量の変遷

念仏論序説……………(六) 1・463—116・491 青木 敬曆

—選撰集を中心として—

印度淨土思想……………(六) 116・526—117・549 色井 秀讓

の一豎断面……………(六) 116・699—117・720

—往生本願の姿選より考察したる—……………(九) 116・748—117・771

道德の秩序と……………(七) 1・551—115・575 島 芳夫

經濟の秩序……………(七) 1・723—115・747

スピノザスムの論理……………(七) 115・606—116・628…竹内 良知

沙漠の自然……………(九) 115・772—117・801…小野 隆祥

—風土學的試論—

未開種族の神話……………(十一) 1・803—113・835 堀 喜望

—機能主義的方法—

芸術哲學の基礎問題……………(十一) 113・836—116・868 西村 嘉彦

—フローベニ研究への覚書—

デカルトの Cogito, ergo sum. の哲學史……………(十一) 116・869—116・888…沢瀉 久敬  
の一考察

アリストテレスに於ける靈魂の構造(未完)……………(十一) 七〇・962—六〇・978 安藤 孝行

イエスの「神の国」(未完)……………(十一) 一・981—一六〇・999…松村 克己

第二十八卷 昭和十八年(一九四三)

歴史の形而上学のための一章……………(一) 一・1—一七・17…高坂 正顕

人間の本質的諸特性とその聯関……………(一) 一六・18—三〇・30 下程 勇吉

美的自律性の先驗論的背景……………(一) 三三・37—三六・65…小川 長成

——カント美学研究——

野崎広義著「懺悔としての哲学」……………(一) 六六・66—七〇・70…伊達 四郎

イエスの「神の国」(承前)……………(二) 一・73—一〇六・106…松村 克己

「たけ」の解釈……………(三) 一・143—一六〇・170…植田 寿藏

——短歌における——

アリストテレスに於ける靈魂の構造(承前)……………(三) 三六・171—三六・206 安藤 孝行

ニイチエ哲学の方法序説……………(三) 三六・207—三六・219 黒田 一郎

——肉体を求むる心——

因果律の包越……………(四) 一・221—一七・247…羽溪 了諦

倫理と全体の理念……………(四) 三六・248—三六・271 島 芳夫

美的理念と芸術史的理念……………(六) 一六・248—一六・271 井島 勉

社会の成立……………(六) 一・299—一六〇・314…淡野安太郎

本仏の哲学……………(六) 四七・345—四七・371 河合 眇明

——特に天台に就て——

国民文化に就て……………(七) 一・373—一六〇・391 木村 素術

民族の諸規定……………(七) 一〇・392—一〇九・421…白井 二尚

鈴木大拙博士著「浄土系思想論」……………(八) 一〇・498—一〇六・506…釘宮 武雄

歴史的世界の倫理……………(九) 一・509—三三・530 島 芳夫

教行信証に於ける教の概念(未完)……………(九) 三三・531—三六・557…武内 義範

神人と人神(第一部完)……………(九) 三〇・558—三六・577 大島 康正

身体性の構造……………(十) 一・579—三三・611…下程 勇吉

現実の論理(第一部完)……………(十) 三三・671—三六・684…上田 泰治

三相 tayakkhana……………(十) 三三・685—三六・718…佐々木現順

——原始仏教理解のための一試論——

神人呼応……………(十) 一・721—一七・735…松村 克己

道徳的目的論……………(十) 一六・736—三三・755…岸畑 豊

ヘーゲル哲学の根本問題に就ての省察(未完)……………(十) 三六・756—三六・772…上田 泰治

——現実の論理、第二部——

第二十九卷 昭和十九—二十年 (一九四四—五)

神秘主義の問題……………(一) 一・1—一三・25…西谷 啓治

——信仰と理性(一)——

気の間接技術学……………(一) 一六・26—一五五・54…佐藤 幸治

カメケの構想……………(一) 五五—一八〇・81…町沢 直治  
 国家と世界……………(二) 一・85—元・113  
 一つの断章……………(三) 一・139—六・156) 木村 素衛

教行信証に於ける  
 教の概念(承前)……………(二) 三〇・114—五〇・136) 武内 義範  
 三〇・157—四〇・168)  
 ヘーゲル哲学の根本問  
 題に就ての省察(承前)……………(三) 三〇・163—四〇・183) 上田 泰治  
 四〇・223—五〇・240)  
 —現実の論理、第二部—

支那に於ける文  
 芸復興論と経学……………(四) 一・185—二・195…重沢 俊郎  
 美的自律性の  
 芸術史的展開……………(四) 二・196—六・222) 小川 長成  
 五・257—四・282)  
 前篇—宗教芸術の美的自律性  
 後篇—美的自律性の自覚

現実存在と我汝の双欲……………(五) 一・241—六・256) 田中 照  
 二・283—三・305)  
 身  
 体……………(六) 二・306—四〇・322) 沢瀉 久敬  
 一・389—四・406)  
 —フランス哲学史の一面—

東洋の絵画におけ  
 る「疎と密と二体」……………(六) 一・323—六・338) 植田 寿蔵  
 一・407—四〇・426)  
 の解釈……………(十) 一・407—四〇・426)

無着の唯識哲学に  
 於ける中心思想……………(十) 一・339—三・359) 鈴木 宗忠  
 一・427—三・442)  
 三・498—四・515)

哲学論文集第四補遺……………(六) 一・361—二五・375…西田幾多郎  
 一・376—二六・388…田中 孝雄

葉隠武士道哲学管見……………(九) 一・376—二六・388…田中 孝雄  
 一・443—五〇・465…大島 康正

時代区分の超  
 歴史的根拠……………(十) 一・467—三・497…西田幾多郎  
 一・467—三・497…西田幾多郎

数学の哲学的基礎附け……………(十一) 一・467—三・497…西田幾多郎

第三十卷 昭和二十一年(一九四六)

独逸神秘主義  
 と独逸哲学……………(一) 一・1—四〇・20) 西谷 啓治  
 五〇・275—六〇・300)  
 芸術的世界の形  
 成と發生形態……………(一) 二・21—四・48…金田 民夫  
 —ディルタイに於ける感情構造と原始芸術—

細胞の起源……………(一) 四六・49—四八・58…桑田 義備  
 御進講草葉 歴史  
 哲学ニツイテ……………(二) 一・61—四・64…西田幾多郎

私の論理につ  
 て(続筆)……………(二) 五・65—六・66…西田幾多郎

寸心先生日記抄(未完)……………(七) 五・67—六・86) 田中 照  
 五・193—六・209)  
 三・431—四・441)  
 六・690—六・694)  
 四・740—六・757)

西田君の憶ひ出……………(三) 二・87—三・89…狩野 直喜  
 「善の研究」の  
 生れるまで……………(三) 三〇・90—四〇・108…島谷 俊三  
 —寸心先生伝資料の一節—

場所とコローラ……………(二) 四六・109—五〇・133…山内 得立  
 印度に於ける  
 業論について……………(三) 一・135—二・151…松尾 義海

美的教育論としてのシ  
 ラーの人間形成の理念……………(三) 一・152—四・176…小田 武

知の第二面……………(四) 五・177—六・192) 山田 次郎  
 三・261—六・273)  
 五・617—六・627)  
 三・665—六・686)

個性自覚としての美  
 思考の心理学的意義……………(四) 一・211—四・230…矢田部達郎

第三十一卷 昭和二十二年 (一九四七—八)

アリストテレスに於ける実践の構造  
——靈魂諸部分の聯関——

(四)	三〇	231—260	安藤 孝行
(三)	二七	301—322	
(二)	二〇	404—420	
(一)	一六	478—499	
(十)	一六	546—559	
(十一)	一七	713—722	

精神病者に見られる時間体験の障礙  
知性の法則(マッサン)……………(七) 一・339—一六・354…矢田部達郎  
精神疲労の一考察……………(六) 一七・355—三〇・368…園原 太郎  
固定現象に関する比較心理学的考察……………(六) 三三・369—四六・384…八木 晁  
心理学に於ける二三の科学論的問題……………(六) 四二・385—五五・392…末永 俊郎

「セルヴン」教につきて……………(七) 一・395—九・403…足利 惇氏  
仏教に於ける知識の確実性の論究(未完)……………(七) 二二・421—三三・430…武邑 尚邦  
倫理学の現代的使命……………(六) 一・443—一〇・462…島 芳夫  
確 実 性……………(六) 二二・463—三三・477…長沢 信寿  
——聖アウグスティヌス研究——

美の批判(未完)……………(六) 一・501—一六・519…植田 寿蔵  
起信の課題……………(六) 一四・520—二四・545…久松 真一  
……………(六) 一六・578—二七・597

精神分裂病と神経症との關聯に就て……………(七) 一六・598—二五・616…村上 仁  
ペスタロッチに於ける人間学的思想の發展……………(十一) 一三・654—二六・664…松田 義哲

「美的判断力批判」の課題……………(十一) 一・697—一六・712…吉田 忠勝

經學の本質……………(一) 一・1—一〇・20…重沢 俊郎  
作品の場面……………(一) 二二・21—二六・38…河本 敦夫  
仏教に於ける知識の確実性の論究(承前)……………(一) 一六・39—二六・65…武邑 尚邦  
美の批判(承前)……………(三) 一・97—三三・87…植田 寿蔵  
……………(三) 一・133—一六・150

課せられてゐるもの……………(三) 三三・88—三六・104…相原 信作  
科学とヒューニズム……………(三) 三三・105—三六・131…野田 又夫  
——問題の素描——

内証伝達の様式……………(三) 一六・151—二四・179…石津 照璧  
——天台教相論の解釈——

社会法の性格……………(三) 四六・180—五三・194…磯村 哲  
——近代民法と社会法——

印度美術を貫く二つの精神……………(四) 一・195—三〇・224…上野 照夫

アリストテレスのフュシスに就て……………(四) 三三・225—三五・249…松本 厚  
寸心先生日記抄(承前)……………(四) 二五・250—二六・256

……………(五) 四六・300—五三・321

民族發達の諸段階……………(五) 一・259—一六・284…臼井 二尚  
……………(五) 一・323—一六・340

大脳機能の科学的基礎……………(五) 二二・285—二四・305…本川 弘一  
提婆における因中有果無果の問題……………(六) 一・341—一六・368…大友 芳雄

行動と物質……………(六) 四四・369—五〇・382…小野喜三郎  
福音の論理……………(七) 一・383—三三・403…松村 克己  
……………(七) 一・451—三三・474

スピノザにおける「自己」の問題……………(七) 三・404—五〇・432…竹内 良知  
 リボーに於ける創造的想像力の分析(未完)……………(七) 五・433—六六・449…西村 嘉彦  
 美的感情についての一考察……………(一〇) 三・475—四四・497…金田 民夫

—カントの趣味論に關聯して—

人間の条件反射について……………(一〇) 四・498—五五・503…古武 弥正  
 中観哲学の根本的立場(未完)……………(九) 一・505—二二・531…長尾 雅人

「學問」の語義について……………(九) 五・560—三三・567…木村 俊夫  
 宗教芸術の基本的契機……………(一) 一・569—三三・590…河本 敦夫

「大学の理念」の史的展開(一)……………(一) 三・591—三三・601…森 昭

シラア美的立場……………(一) 三・602—三〇・638…吉田 忠勝  
 印度美術論の宗教性……………(一) 一・631—一四・645…上野 照夫

「美しい魂」の形成におけるカントの所謂「性格」の意義……………(一) 五〇・680—六二・692…小田 武

—人間革命における教育学の使命—

スピノザの「エティック」に於ける神と人間……………(一) 一・695—四三・736…岸畑 豊

音楽における意匠と表現(未完)……………(一) 四・737—四六・740…張 源祥

第三十二卷 昭和二十三年(一九四八—九)

音楽に於ける意匠と表現(承前)……………(一) 四・42—五〇・50…張 源祥  
 パスカルとその生涯……………(一) 五・51—六六・68…樋元 和一  
 —探求としての生—

聖アウグスチヌスに於ける回心の問題(未完)……………(二) 一・69—一七・86…山田 晶

リボーに於ける創造的想像力の分析(承前)……………(二) 三・107—三三・132…西村 嘉彦

大学の原型……………(三) 一・133—一六〇…森 昭

「大学の理念」の史的展開(二)……………(四) 一・199—一七・215…植田 寿藏

文芸特に小説の根源的構造……………(六) 一・327—三三・349…植田 寿藏

「カント」判断力批判」成立に關する一考察……………(四) 一・216—四四・245…西田 秀穂

カントの理性・道徳・宗教……………(五) 一・293—三三・287…大島 康正

我が国上代に於ける家族徳思想の研究……………(六) 三・350—四九・375…木村 俊夫

—家族名称を手懸りとせる—……………(七) 一・391—三三・412…三宅 剛一

現実と歴史……………(七) 一・391—三三・412…三宅 剛一

教育心理学の類型……………(八) 一・480—三三・491…佐藤 幸治

フイヒテ法概念の吟味……………(九) 一・519—三三・545…東 日出男

ルネッサンス期の大学……………(九) 二・546—五〇・568…森 昭

中観哲学の根本的立場(承前)……………(一) 一・1—四四・41…長尾 雅人



フレイザールとマ リノウスキー	(十) 二・603—	望・627…堀	喜望
カントに於ける 倫理と宗教の関 係に就て(未完)	(十一) 一・647—	一六・664…島	芳夫
手簡より見たる王 陽明の思想大要	(十一) 一六・665—	一六・682…保田	清
認識の条件 —Fictionの形而上学へG試論—	(十一) 二・731—	一六・749…松本	彦良

### 第三十三卷 昭和二十四—五年

(一九四九—五〇)

カントに於ける 倫理と宗教の関 係に就て(承前)	(一) 一・1—	一六・16…島	芳夫
--------------------------------	----------	---------	----

危機神学の生成と その展開(未完)	(一) 一七・17—	二二・27	樋元 和
—近世前期フランス精神史論—	(二) 一七・110—	二二・127	
	(三) 一七・283—	二二・303	
	(七) 一七・427—	二二・451	
	(七) 一七・614—	二二・939	

宗教改革期 —「大学の理念」の史的展開(四)—	(一) 一六・28—	一五・55…森	昭
----------------------------	------------	---------	---

アリストテレス存在論 の基礎構造について	(二) 一・65—	一五・81	島野留次郎
	(四) 一・197—	一五・211	
	(四) 一・325—	一五・343	
	(九) 一・549—	一五・556	
	(十一) 一・729—	一五・751	

カント美学の一考察	(二) 一六・82—	一四・109…山本万治郎	重直
自伝の一節	(三) 一・129—	一〇・138…小西	重直

—遺稿— 小西重直先生の 教育学に就いて	(三) 二・139—	二二・155…長田	新
----------------------------	------------	-----------	---

中江藤樹の哲学	(三) 一六・156—	一五・183…下程	勇吉
学校とその機能	(三) 一五・184—	一六・196…前田	博
オーストラリア のトリーテミズム	(四) 一六・212—	一四・237	喜望
聖アウグスチヌスに於 ける回心の問題(承前)	(四) 一四・238—	一四・260…山田	晶
—秩序の問題—			

歴史哲学の問題(未完)	(五) 一・261—	一三・282	大西 友太
近代哲学における 宗教要素の問題	(六) 一四・557—	一四・578	
—ハイムゼット「近代の形而上学」—	(五) 一六・323—	一四・324…中村	正雄

理論心理学に於 ける意識の問題	(六) 一〇・344—	一四・371…上代	晃
炉部屋への幻想	(六) 一四・372—	一四・388	伊礼 正雄
—デカルトに於ける体験と理論—	(七) 一四・492—	一六・513	

思弁論理の可能性 に就いて(未完)	(七) 一・289—	一三・399	山本 清幸
	(八) 一・470—	一六・491	
美的理念について	(七) 一・400—	一六・426…今井	清
アリストテレスに於 ける知性の構造(未完)	(八) 一・453—	一三・469	安藤 孝行
教養と有用	(九) 一三・663—	一四・683	
—ゲーテの教育思想—	(九) 一・515—	一三・548…前田	博

実存と所有	(十) 一・579—	一三・601…山内	得立
陳那教学の課題(未完)	(十) 一四・602—	一三・613…武邑	尚邦
中江藤樹の教学	(十一) 一・641—	一三・662…下程	勇吉
多値論理学	(十一) 一四・684—	一三・703…杉原	丈夫
宗教的実存の実 存的課題(未完)	(十二) 一・705—	一三・728…石津	照璧

—キエールケール諸著作の位置と意義—

第三十四卷 昭和二十五年（一九五〇）

危機神学の生成とそ  
の展開（承前・未完）……………（五）三・289—五・311…樋元 和  
—近世前期フランス精神史論—

第三十五卷 昭和二十六年—七年  
（一九五二—三）

宗教的実存の実  
存的課題（承前）……………（一）一・1—三〇・38…石津 照璽  
—ヘーゲル・コール諸著作の位置と意義—  
思弁論理の可能性……………（一）三・31—五・39…山本 清幸  
に就いて（承前）……………（一）六・88—三・107  
鎌倉期浄土教の  
時間論的展開……………（一）四〇・40—五・56…河野 憲善  
—一遍の当体の念仏のこころ—

書評—Northrop, The  
Meeting of East and  
West by Althaus, Die christliche Wahr-  
heit について……………（一）五・57—三・63…有賀鉄太郎

求道時代の仏陀（未完）……………（二）一・71—三・87…武内 義範

アリストテレスに於  
ける知性の構造（承前）……………（三）六・158—五・171…安藤 孝行  
（四）四・237—五・251  
（五）二・282—三・288

社会学会の近況……………（一）五〇・120—五・121…白井 二尚

国際東洋学会……………（二）五・121—五・128…長尾 雅人

ヘーゲルの芸術史論……………（三）一・133—三・157…植田 寿蔵

陳那教学の課題（承前）……………（三）五〇・172—五・185…武邑 尚邦

戦後に於ける倫  
理学の諸傾向……………（三）五〇・186—五・191…島 芳夫

善の意味（未完）……………（四）一・195—三・213…田中美知太郎

歴史哲学の問題（承前）……………（四）二〇・214—三・236…大西 友太  
ハイデッガーの近著……………（四）五・252—三・257…山内 得立  
芸術の内容……………（四）一・259—三・281…井島 勉

支那思想に於け  
る自由と必然……………（一）一・1—三・19…重沢 俊郎

危機神学の生成と  
その展開（完）……………（一）四・20—五・45  
（二）三・223—三・255  
（三）四・300—五・310  
（四）五・363—三・375  
（五）四・493—五・502  
（六）四・627—三・639  
—近世前期フランス  
精神史論—

ヘーゲルに於ける人  
倫の成立の一過程……………（一）四・46—三・62…岸畑 豊  
（二）四・212—三・222

児童心理学の近況……………（一）六・63—三・67…園原 太郎  
論 理 性……………（一）一・69—三・87…山内 得立  
未開社会考……………（一）一〇・88—三・143…白井 二尚

道徳的事実と  
社会的事実……………（二）六・144—三・172…島 芳夫

「哲学研究」の発足……………（二）一〇・173—三・174…朝永三十郎

「哲学研究」編  
輯の思ひ出……………（二）一〇・174—三・176…高坂 正顕

回顧十年……………（二）一〇・176—三・180…中井 正一  
—思ひ出づるまに—

回顧……………（二）三・180—三・182…服部英次郎

編輯の思ひ出……………（二）二四・182—三・186…沢瀉 久敬

「哲学研究」の近情……………（二）二六・186—三・187…井島 勉  
印度に於ける  
論証学の性格……………（三）一・189—三・211…松尾 義海

サロモン・マ  
イモンの哲学……………(四) 1・257—19・273…野田 又夫  
—弁証法の出発点における問題—  
中観哲学の論理—序……………(四) 1・274—19・299…梶山 雄一  
自立心交の教育……………(五) 1・319—16・346…下程 勇吉  
—吉田松陰の教育—  
個性性の問題……………(五) 1・347—16・364  
—ノートルフ研究—……………(五) 1・404—19・432…金子 栄一  
実存哲学、ニーチエ……………(六) 1・381—19・403…武市 健人  
の哲学、西田哲学……………(七) 1・477—19・492  
—歴史的唯物論の意味の探究のため—  
グラープマンと……………(七) 1・433—19・438…高田 三郎  
ジルソン(未完)  
転換の論理……………(七) 1・449—16・476…長尾 雅人  
波多野宗教哲学の立場……………(七) 1・509—19・523…片山 正直  
—未完稿「波多野宗教哲学」第一章—  
波多野宗教哲学と……………(七) 1・524—19・538…浜田 与助  
ニライエルマンヘル……………(七) 1・539—19・549…有賀鉄太郎  
ヘブライ思想に……………(七) 1・579—19・607  
於ける神と智慧……………(七) 1・550—19・556…石原 謙  
波多野精一先生……………(七) 1・556—19・560…山谷 省吾  
波多野精一先生の追憶……………(七) 1・560—19・565…西谷 啓治  
波多野先生のことども……………(七) 1・565—19・572…田中美知太郎  
ひとつの私的回想……………(七) 1・572—19・577…松村 克己  
—波多野先生と古典研究—  
晩年の波多野先生……………(七) 1・608—19・636…大谷 長  
キルケゴールの……………(七) 1・643—19・657…山内 得立  
「受取り直し」……………(七) 1・705—19・728  
所有と習慣……………(七) 1・658—19・662…平下 欣一  
ヘーゲルに於ける……………(七) 1・658—19・662…平下 欣一  
と理性的なもの……………(七) 1・658—19・662…平下 欣一

唯識に於ける……………(七) 1・683—19・702…服部 正明  
根拠の問題……………(七) 1・729—19・738…堀 喜望  
—その歴史の概念について—  
フランス・ポアズ(未完)……………(七) 1・767—19・780  
カントに於ける「取……………(七) 1・739—19・764…青木 茂  
り残された」空間の……………(七) 1・781—19・808…森口美都男  
諸問題……………(七) 1・781—19・808…森口美都男  
超越論的演繹の生成……………(七) 1・809—19・813…橋本 峰雄  
—一七〇〇年代のカント—  
書評—ルカッチ……………(七) 1・809—19・813…橋本 峰雄  
「若し、ヘーゲル」……………(七) 1・809—19・813…橋本 峰雄

第三十六卷 昭和二十七年 (一九五二—四)

カントに於ける叡……………(一) 1・1—19・21…高坂 正顕  
智的世界の構造……………(一) 1・22—19・52…下程 勇吉  
力動的恒常性……………(一) 1・53—19・66…朝永振一郎  
場と物質……………(一) 1・67—19・76…野田 又夫  
哲学史家として……………(一) 1・77—19・80…佐々木惣一  
清い交りや長く……………(一) 1・81—19・82…天野 貞祐  
続けてもらった……………(一) 1・83—19・84…佐武安太郎  
朝永先生の思出……………(一) 1・84—19・85…山内 得立  
朝永博士との萊……………(一) 1・86—19・88…日高第四郎  
府時代を顧る……………(一) 1・88—19・91…田中美知太郎  
追憶一つ……………(一) 1・91—19・103…三井 浩  
師恩を偲ぶ……………(一) 1・91—19・103…三井 浩  
朝永先生の微笑……………(一) 1・104—19・107…三井 浩  
恩師朝永先生……………(一) 1・104—19・107…三井 浩  
朝永三十郎博士略年譜……………(一) 1・104—19・107…三井 浩

力と生命……………(10) 1・109—2・134…沢瀉 久敬  
 フランツ・ポアズ(承前巻) (10) 2・135—5・168…堀 喜望  
 —その歴史の概念について—

グレアム教授を中心とした「実験心理学」のセ…(11) 5・159—6・162…佐藤 幸治  
 ミナアについて  
 —アメリカ研究京都セミナー記事(11)—

教育哲学班について……………(12) 5・162—5・166…落合 健一  
 —アメリカ研究京都セミナー記事(12)—

創造の原因……………(13) 1・169—1・186] 山本 清幸  
 第四のもの……………(13) 2・252—5・262]

プラトンの認 識論的分析……………(13) 1・187—5・217…藤沢 令夫  
 書評「ホルト」デカルトのラシヨナリズム」…(13) 5・218—5・224…森田 良紀

サルトルのイマジナションについて……………(14) 1・227—2・251…西村 嘉彦  
 シェーラーに於ける「人格の情緒的存在構造」に就いて……………(14) 2・263—5・276…深谷 昭三

美学界の近状……………(14) 5・277—5・281…井島 勉  
 発生的見地より見たる空間視知覚の問題 —遊藝効果の考察—……………(15) 1・283—1・301…園原 太郎

中観哲学の論理形態……………(15) 10・302—10・342] 梶山 雄一  
 コーヘレスに おける智慧……………(16) 1・343—2・369…有賀鉄太郎

公通性 (communication)……………(17) 1・403—1・418…山内 得立  
 流通性 (communication)……………(17) 1・403—1・418…山内 得立

無我思想に於ける業の概念……………(17) 1・419—10・442…佐々木現順

デカルトの実体論……………(17) 10・443—11・464…三輪 正  
 —理論、経験、実践—  
 ブイシェーシカ哲学に於ける句義説の立場……………(17) 1・465—3・487…松尾 義海

キェルケゴールに於ける信仰と倫理……………(17) 2・488—5・518…東 專一郎  
 懐疑の克服……………(17) 1・521—3・541…長沢 信寿  
 —聖アウグスティヌス研究 小序—

ハイデッガーに於ける「存在」と「無」の問題……………(17) 3・542—5・569…田中 加夫  
 トマス・アクィナスの形而上学研究……………(17) 5・570—10・580] 宮地 宏  
 —合成実体の存在と本質について—……………(17) 5・617—5・638]

マリノウスキー論……………(17) 1・583—3・616] 棚瀬 襄爾  
 デイルタイの生命の哲学……………(17) 1・639—1・656…石田 仁

アメリカにおける実験心理学……………(17) 2・667—3・681…C.H.グレアム  
 事実と事実性(未完)……………(17) 1・683—3・725…樋元 和一  
 —問題論的考察—

ヘーゲル「法哲学」に於ける市民社会……………(17) 10・726—5・737…鶴田 孝  
 論について

第三十七卷 昭和二十九—三十年 (一九五四—五)

人間存在に於ける心身の関係……………(1) 1・1—3・31…島 芳夫  
 事実と事実性(承前)……………(1) 3・32—4・42…樋元 和一  
 —問題論的考察—

デカルトの自由論……………(1) 10・43—11・62] 滝浦 静雄  
 ……(1) 2・90—5・107]

高き大なる論理……………(二) 1・63—3・89—植田 寿藏

郭象の莊子解釈……………(二) 四・108—六・124—福永 光司

—主として無「無為」無名に於て—

ハイデッガー……………(三) 1・125—四・166—辻村 公一

の根本経験……………(三) 1・125—四・166—辻村 公一

推論の三つの型(アリストテレス)……………(四) 1・187—二・201—山内 得立

始元……………(四) 一六・202—三・220—酒井 修

—ヘーゲル「論理学」に於ける「否定」の研究—

物質と精神の架橋……………(四) 三・221—五・245—右衛門佐重雄

実践的推論……………(五) 四・297—五・305—安藤 孝行

—アリストテレスに於ける実践の構造—

デカルトにおける判断論の問題……………(六) 三・343—五・362—鈴木 茂

—物質の存在証明「ゴット」—

書評H・J・ペー「ト」定言的命法」……………(六) 五・363—六・370—門脇 卓爾

普遍、概念、意味……………(七) 1・375—二・398—森口美都男

—「ト」定言的命法」—

書評—金子武藏「実存理性の哲学」……………(七) 五・426—五・429—大友 久由

—ヤスハリス哲学に即して—

仏陀の沈黙とその中観的意義……………(八) 1・435—二・455—長尾 雅人

カントの歴史哲学……………(九) 二・521—五・546—高橋 昭二

求道時代の仏陀(承前)……………(十) 1・555—二・571—武内 義範

機械と精神……………(十) 三・580—五・610—森田 良紀

カント道徳哲学……………(十一) 四・636—四・663—門脇 卓爾

横井小楠の実学……………(十一) 四・663—六・682—源 了円

—幕末思想史の一断面—

相対性理論の弁証法……………(十一) 1・685—六・712—田辺 元

ハイデッガーと歴……………(十一) 二・713—六・744—辻村 公一

第三十八巻 昭和三十一年 (一九五五—一六)

序……………(一) 一・1—三・34

第一、シュニツツ説批判……………(一) 一・86—六・128

第二、デフエラリ説批判……………(二) 1・137—三・168

第三、語原的分析……………(三) 四・245—五・260—山田 晶

第四、トラスの用法……………(四) 一・293—六・329

(1)……………(二) 一・366—六・382

(2)……………(三) 一・549—六・565

(3)……………(四) 一・607—三・645

結論及び追記……………(五) 一・607—三・645

—「ト」定言的命法」—

聖トマスに於ける esse と existere……………(一) 三・35—五・54—山中 良知

—カント目的論の構造と批判—

Intellectual History of……………(一) 五・55—六・66—中村 正雄

知覚の様式……………(二) 1・69—二・85—ヴァーデルリッヒ

表現の様式……………(三) 三・169—六・199—辻村 公一

ハイデッガーと歴……………(四) 一・203—二・218—ヴァーデルリッヒ

哲学と言語……………(五) 一・203—二・218—ヴァーデルリッヒ

和合の因果と  
転変の因果……………(四) 11・219—四三・244…松尾 義海

ヘーゲル哲学……………(五) 1・269—四三・292…武市 健人  
の体系と性格  
—「有—無—成」と価値論との弁証法についての再論—

実存哲学について……………(六) 1・335—三三・365…ゲルハルト・クナウス  
クナウス  
最高善について……………(六) 四二・383—五〇・404…南沢 貞美

学習について……………(六) 1・407—五〇・410…矢田部達郎  
—カント弁証論の課題—

弁別学習の転移……………(六) 五・411—六六・464…本吉 良治  
—特に動物心理学の領域において—

言語学習に於ける類似性の問題……………(七) 五・465—六六・492…梅本 堯夫  
—前ソクラテス期のギリシア哲学における—

前ソクラテス期のギリシア哲学における……………(七) 1・499—三六・524…鈴木 照雄  
—不可分なもの—

幸福と人間像……………(七) 三・525—五〇・548  
—ベントムの幸福の概念に於て—  
岸畑 豊

東西の絵画における空間構造の比較……………(七) 1・571—三三・592…植田 寿蔵  
—レオナルドの研究の一節—

神の無名性について……………(十) 1・649—三三・671…有賀鉄太郎  
—特にフロンにおける—

ヘーゲルの二元性……………(十) 四・689—四三・722  
—四三・777—五〇・796] 橋本 峰雄

ホッブズ哲学の再評価……………(十) 1・727—三三・743…平下 欣一  
—カントの先験的統覚—

古代支那に於ける観念論の成立……………(十) 1・799—三〇・813…重沢 俊郎

幸福と人間の本质(未完)……………(十二) 三・819—三六・834…岸畑 豊  
—ベントムの幸福の概念に於て—

カントに於ける法と道徳の分離について……………(十二) 三・835—六〇・858…土岐 邦夫

### 第三十九卷 昭和三十一年 (一九五六一—八)

(一九五六一—八)

世界文化の生成……………(一) 1・1—一九・19…ジュリアン・H・ステューアード  
—文化変動に見られる通則性—  
伊藤規矩治訳

幸福と人間の本质(完)……………(一) 三〇・20—三三・37  
—ベントムの幸福の概念に於て—  
岸畑 豊

デカルト自然学の意味……………(一) 六・38—六六・64…湯川佳一郎  
—天上地下を対置する他界観念の成立—

ケルケゴールに於ける宗教的実存……………(二) 四〇・108—六六・136…安本 行雄

ギリシヤ人と歴史(未完)……………(三) 1・141—三六・166  
—三三・329—五〇・349] 田中美知太郎

論理学研究の一課題……………(三) 三・167—四三・187…上山 春平

リチエルの価値判断の問題性……………(三) 四・188—六六・205  
—四三・258—六六・273] 森田雄三郎

悪の問題と心身関係……………(四) 1・209—三三・231…島 芳夫  
—カント教育学の問題—

解釈とその問題……………(四) 四・232—四三・257…門脇 卓爾

クリスチャン・ヴォルフについて……………(四) 六・274—六六・289…細川 董

心理テストについて……………(五) 1・291—一六・308…矢田部達郎  
—ヴォルフ研究、其の一—

欧米哲学界の印象……………(五) 一六・309—三三・328…高坂 正顕

フィヒテに於ける自我……………(五) 六〇・350—六六・371  
—六三・447—四三・468] 大峯 顕

草創当時……………	(五) 二・372—六・379	植田 寿蔵
書評—大島康正「実存 論理の歴史的境位」	(五) 九・380—10・390	梅原 猛
歴史と実存……………	(六) 一・385—三・433	ゲルハルト・ 酒井クナウス 酒井 修訳
西洋哲学と印度思想……………	(六) 四・434—五・446	スワミ・ アグダ・パーティナン
一つの比較的研究— 書評—ムルティ	(七) 三・520—六・544	堀山 雄一訳
教授の近業……………	(六) 五・469—六・478	長尾 雅人
時間の「方向」……………	(七) 一・485—四・498	マックス・ 野田 又夫訳
講集團の社会的性格……………	(七) 一五・499—三三・519	池田 義祐
米国の哲学と哲学教育……………	(七) 六・545—10・554	フレデリック・ 武田 弘道訳
マックス・ブランク 教授の講義をきいて —アメリカ研究夏期セミナー(一九五七年)—	(七) 二・555—三・559	森田 良紀
室町時代初期に於ける 画僧如拙の存在意義	(八) 一・565—四・578	蓮実 重康
リルケに於ける 境界没却の理想……………	(八) 一五・579—三三・600	三浦 友幸訳
ヘーゲルに於ける 行為の構造……………	(八) 三三・601—三六・635	中壘 肇
—特に悲劇に関連して—		
新刊紹介—G・マラ ンテニョク「S・キャ ケゴリアの著作入 門」—S・キャケ ゴリアの「教会攻撃」	(八) 三三・636—三六・649	大谷 長
人間存在と超越……………	(九) 一・649—17・665	三宅 剛一
シェリング神学……………	(九) 一六・666—四・696	エルンスト・ 酒井 修訳
思想の父祖たち		

ヘーゲルの入 間学の性格……………	(九) 四・697—六・716	船山 信一
—体系におけるその地位—	(九) 三三・777—三三・795	
ブルーノの死……………	(九) 六・717—六・737	清水 純一
近代美術にお けるアトム化……………	(九) 九・813—六・830	マックス・ ビカート 佐野 利勝訳
「墨子」兼愛説に対 する倫理学的考察……………	(十) 三三・796—六・812	保田 清
形はなぜ在るか……………	(十) 一・835—三三・859	植田 寿蔵
サーンキヤ哲学にお ける認識について……………	(十) 三三・860—四七・881	松尾 義海
ドイツ観念論の歴 史哲学に於ける終 末論的基礎……………	(十) 四・882—六・901	エルンスト・ ヘンツ 塩谷 鏡訳
アペラールの普遍論……………	(十) 六・902—九・933	横山 哲夫
時間と自由……………	(十) 一・937—三三・966	島 芳夫
学としての形而上学 は可能か(未完)……………	(十) 三三・967—三三・989	阿部 正雄
—カント「純粹理性批判」の窮極課題—		
カントの感情について……………	(十) 三三・990—三三・1013	大塚 恵一
—「道徳性」の意味内容—		
偶然への問い……………	(十) 六・1014—六・1030	小林 幹夫
—偶然性の学としての形成を中心として—		
書評—鈴木亨君の「実 存と労働」を讀んで	(十) 三三・1031—六・1033	島 芳夫

第四十卷

昭和三十三年

(一九五八—六〇)

存在論的証明……………	(十一) 一・1—15	チャールズ・ ハットホトン 野田 又夫訳
—また論破されていない四つの形式—		

時と永遠……………	(一)	16—	田・	41…	武藤	一雄
—聖書的時間論についての考察—						
カントにおける	(一)	42—	三・	65…	観山	雪陽
「直観」について……………						
第九回国際宗教学宗	(一)	66—	三・	73…	有賀鉄太郎	
教史会議について……………						
ゲーテに於ける人間像……………	(二)	77—	三・	91…	フリッツ・ホヨア ヒム・フォン・ リンデレン 谷友幸訳	
知ることと認め	(三)	92—	三・	119…	森口美都男	
ること(未完)……………	(七)	16・	三・	864…		
ラシヨナリスム……………	(二)	120—	三・	153…	三嶋	唯義
—デカルトとマルブランシェ—						
デンマーク・ソエー	(二)	154—	三・	158…	大谷	長
ヤン・キヤケゴア……………						
協会の現況……………	(三)	163—	三・	179…	マルティン・ ハインツガー 竹市明弘訳	
思惟の根本命題……………	(三)	180—	三・	203…	柿崎	祐一
フエヒネルの	(三)	204—	三・	240…	橋本	峰雄
法則について……………						
バークリの夢……………	(三)	245—	三・	277…	鹿野	治助
—フエノメナリスムと形而上学—						
<i>Quelques réflexions</i>	(四)	345—	三・	371…		
<i>et pour le dire</i>	(四)	278—	三・	313…	服部	正明
—メタアの自然と自由—						
デイグナーの知識論……………	(四)	372—	三・	399…		
ヘイマルメネー……………	(四)	314—	三・	339…	水地	宗明
カントに於ける	(五)	400—	三・	426…	今津	鶴雄
「Transcendental- Philosophie」の理念	(五)	427—	三・	433…	北川	三夫
に於て……………						
日米の宗教学……………	(五)	437—	三・	463…		

文化人類学に	(六)	437—	三・	463…	棚瀬	襄爾
いての学問論……………						
学としての形而上……………	(六)	464—	三・	483…	阿部	正雄
学は可能か(未完)……………	(七)	600—	三・	621…		
宗教寛容論の	(七)	486—	三・	510…	岩坪	紹夫
哲學的基础……………						
—「事」の「事実の明証」について—						
即自・対自の二	(七)	511—	三・	536…	木村	彰吾
元性をめぐって……………						
—サルトル哲学の一考察—						
バルツソンと	(七)	541—	三・	582…	三輪	正
習慣の問題……………						
独逸浪漫主義	(七)	583—	三・	599…	吉田	忠勝
の生活原理……………	(七)	677—	三・	697…		
何故ハムレットは復	(七)	623—	三・	643…	リヒャルト・ 阿部正雄訳	
讐をためらうのか……………						
認識概念に関	(八)	644—	三・	676…	島崎	得道
する或考察……………						
—ラスタク認識論の一断面—						
書評「佐々木現順著	(八)	698—	三・	714…	大地原	豊
「阿毘達磨思想研究」……………					服部	正明
弁証法の論理的構造……………	(八)	719—	三・	736…	田口	寛治
信樂の論理……………	(八)	737—	三・	763…	石田	慶和
—「教行信証」の哲學的考察—						
支配過程論……………	(八)	764—	三・	792…	塩原	勉
—支配の組織化と経営—						
マイスター・エック	(八)	793—	三・	807…	南原	実
ハルトの非キリスト……………						
教的解釈の可能性……………	(九)	811—	三・	837…	梶山	雄一
インド論理学……………	(九)	936—	三・	960…		
の基本的性格……………						
必然ということ……………	(九)	865—	三・	897…	種山	恭子
—「チマイオス」解釈の一断面—						



「読書人」身分の「教養」と「倫理」……………(十一) 一・903—三・935…湯浅 幸孫  
 — 中國文化の統一性の基礎—  
 フッサールのモノラ論……………(十一) 一・961—六・983…水野 和久  
 結合点……………(十一) 一・989—三・1011…植田 寿蔵  
 — 目的寄り合う場所—  
 原初期ギリシャ……………(十一) 一・1012—三・1041…田中 加夫  
 ハイデッガー……………(十一) 一・1042—六・1067…鹿毛 誠一  
 目的論的人間の定位……………(十一) 一・1042—六・1067…鹿毛 誠一

第四十一卷 昭和三十五年—七年 (一九六〇—二)

構想力の問題……………(一) 一・1—三・21…石田 仁  
 フッサールの……………(一) 一・22—六・46…青木 隆嘉  
 「エイヌス」……………(一) 一・47—三・74…米倉 守  
 精神現象学の成立史……………(一) 一・124—六・144…  
 — ハーゲル精神現象学の研究—  
 人生の目的……………(二) 一・79—三・91…  
 チャールズ・ハーツホーン  
 三小田 敏雄訳  
 アウグスチヌスにおける……………(二) 一・92—三・123…金子 晴男  
 理性と信仰の問題……………(二) 一・92—三・123…金子 晴男  
 クリスチャン・ヴォルフの定義の説について……………(二) 一・145—六・162…細川 董  
 — ヴォルフ研究、其の二—  
 知識学の本質とその……………(三) 一・165—三・198…辻村 公一  
 内的動性(未完)……………(三) 一・645—六・671…  
 監修 天田部達郎  
 中 津島 忠誠  
 津島 忠誠  
 現代学生と宗教……………(三) 一・199—三・238…  
 — 実態調査に基づく考察—  
 デカルトの青春……………(三) 一・239—六・249…竹田 篤司  
 (五) 一・413—六・431…

行動の個体発達における連続性問題……………(四) 一・251—六・269…園原 太郎  
 乳児期初期の音声発達……………(四) 一・270—三・292…村井 潤一  
 対連合学習の機構……………(四) 一・293—三・360…森川弥寿雄  
 John Locke に於ける認識の問題……………(五) 一・361—三・386…服部 知文  
 — その体系の統一の把握について—  
 ハイデッガーの超越……………(五) 一・384—三・412…白井 成道  
 神の現存と認識……………(六) 一・435—三・456…山田 晶  
 — アウグスチヌスとトマスに於ける—  
 スース素描……………(六) 一・474—三・504…長坂 公一  
 — 晩年のプラトンが愛用した一用語の研究—  
 拙著に対する書評への一言……………(六) 一・505—三・524…佐々木現順  
 国家権力の社会的基礎……………(七) 一・562—三・583…高島 晶二  
 フランクフルト時代におけるヘーゲルの実存……………(七) 一・584—三・612…向井 守  
 — 特に美しう魂に關連して—  
 暗はなぜ画かれたか……………(八) 一・623—三・644…植田 寿蔵  
 プロチノスに於けるテオリアーの問題……………(八) 一・672—三・694…田之頭安彦  
 意味の問題……………(八) 一・701—三・726…山内 得立  
 苦しみの場所(未完)……………(八) 一・727—三・751…森口美都男  
 作品の構造……………(八) 一・752—三・779…新田 博衛  
 意味の成立……………(九) 一・781—三・805…山内 得立  
 レイヌス……………(九) 一・806—三・835…水地 宗明  
 定言的命法の基礎……………(九) 一・836—三・858…小熊 勢記  
 Supposito……………(十) 一・859—三・882…山内 得立  
 自由概念の分析と弁証……………(十) 一・893—三・904…平下 欣一  
 カントの形而上学……………(十) 一・295—三・935…常俊宗三郎

聖アウグスチヌスの認識説……………(十二) 一・939—三・961…高橋 亘  
 実存者の対話と沈黙(未完)……………(十二) 四・962—五・997…酒井 修  
 デカルトの自然学……………(十二) 六・998—八・1022…神野慧一郎

第四十二卷 昭和三十七—十九年 (一九六二—四)

生の存在学か死の弁証法か……………(一) 一・1—五〇・50…田辺 元  
 エイコース・ロコス……………(一) 五・51—八・81…森 進一  
 書評—西谷啓治博士著『宗教とは何かを』読み……………(一) 六・83—一〇四・104…阿部 正雄

Abduction……………(二) 一・105—三・129…山内 得立  
 ロックの政治思想……………(二) 六・130—四・148…塚崎 智  
 文芸作品の構造に關する一考察……………(二) 四・149—六・149…北村ひろ子  
 —主として重層性と統一性について—

近世哲学の世界概念……………(三) 一・171—三・193…カール・レーヴィット  
 苦しみの場所(未完)……………(三) 三・195—六・209 佐藤明雄  
 森口美都男 (三) 三・727—五・748  
 デカルトの悟性……………(三) 四・211—四・264…水野 和久  
 いわゆる錯視の問題をめぐって……………(四) 一・265—二・283…柿崎 祐一

インド知識論における真・偽の考察……………(四) 三・285—五・321…宇野 博  
 —正理・辯論学派を中心として—  
 自然の歴史と自由の歴史……………(四) 五・323—八・347…池内 健次  
 —カントの歴史哲学的思想の考察—

価値の経験論的解釈と超越論的解釈……………(五) 一・353—六・381 島 芳夫  
 (五) 一・697—二・725

教育的認識の構造……………(五) 三・383—六・413 源 了円  
 (五) 三・461—四・484  
 プラトン第七書簡の謎……………(五) 四・415—六・437…長坂 公一  
 聴覚の論理……………(六) 一・439—三・459…植田 壽藏  
 ナショナルリズムの類型……………(六) 四・485—五・508…高島 昌二  
 外部知覚について……………(六) 七・509—八・522…岡田 正次  
 有についてのカント……………(七) 一・523—三・545 マルティン・ハイデッガー  
 (七) 一・791—二・811 辻村公一 訳

田辺哲学について……………(七) 三・547—五・577…西谷 啓治  
 田辺哲学における数理哲学の地位について……………(七) 五・577—六・611…下村寅太郎  
 —「数理の歴史主義展開を中心として」—  
 行為と弁証法……………(七) 六・613—一〇五・626…野田 又夫

田辺先生の死の哲学について……………(七) 一〇五・627—一一・643…武藤 一雄  
 弁証法と時……………(七) 三・645—六・660…辻村 公一  
 田辺先生について……………(七) 三・661—四・662…相原 信作  
 田辺さんの思出……………(七) 四・662—四・663…天野 貞祐  
 病床の田辺先生……………(七) 四・663—四・667…石沢 要

「哲学通論」の Ausgangspunkt……………(七) 四・667—四・669…石田 仁  
 片 雲……………(七) 四・669—四・670…植田 壽藏  
 田辺先生と書物……………(七) 四・670—五・672…上田 泰治  
 恩 師……………(七) 三・673—四・676…沢鴻 久敬  
 田辺先生をしのぶ……………(七) 四・676—五・677…北森 嘉藏

初めて田辺先生の講義をきいた頃……………(七) 五・677—五・679…高坂 正顕  
 田辺先生の想い出……………(七) 五・679—六・682…高山 岩男  
 追 憶……………(七) 六・682—六・684…高橋 稔

晩年の田辺元……………(七)三三・684—三六・686…土井虎賀寿  
先生の思ひ出……………(七)三六・686—三六・688…野上弥生子

記録の断片……………(七)三六・686—三六・688…野上弥生子  
カントの弁証論……………(八)三三・749—三三・779…高橋 昭二

ライプニッツとペール……………(八)三三・813—三三・840…岩坪 紹夫  
—形而上学的悪の問題—

アリストテレス初  
期著作におけるブ  
ラントン解釈……………(八)三五・843—三三・872…川田 殖  
—断片集を中心として—

西田哲学とホワイト……………(八)三六・873—三三・881…野田 又夫  
ヘッド哲学……………(八)三六・873—三三・881…野田 又夫

禅は美術に影響したか……………(八)三六・883—三三・904…植田 寿蔵

神の意志……………(八)三三・905—三三・930…山田 晶  
—トマス三位一休論における—

カントにおける自我  
の問題と内官のバラ  
ドックスについて……………(八)三六・931—三三・966…芦田 淑

クワイン「ことば  
ともの」……………(八)三六・967—三三・973…土屋 純一

形而上学的な  
存在は必要か……………(八)三三・931—三三・982…ビーター・  
アントン 武田弘道訳

ライプニッツの実体論……………(八)三三・1007—三三・1030…田中 英三  
—神の創造におけるその基盤—  
(八)三三・1079—三三・1105

ブルトマンと  
ハイデッガー……………(八)三三・1031—三三・1050…辻村 公一  
—信仰と思维—

価値理論の諸問題……………(八)三三・1061—三三・1078…J.N.  
フインドレイ 土屋純一訳

デカルトにおける  
懐疑論の克服……………(八)三三・1107—三三・1134…坂本 博

R・G・オルソン……………(十三)三三・1135—三三・1139…三輪 正  
「実存主義人間」……………(十三)三三・1135—三三・1139…三輪 正

A・L・ウインスピア  
「ルクレチウスと科学の  
思想」……………(十三)三三・1139—三三・1141…北嶋 美雪

### 第四十三卷 昭和四十一年 (一九六五—一六)

Suppositioの諸階型……………(一)一・1—三三・33…山内 得立  
「意味の研究」其の五—  
目的の国……………(一)三三・35—三三・53…青木 隆嘉

スピノザの内在线……………(一)三三・55—三三・78…森 啓  
ペトルカカ……………(一)三三・79—三三・96…近藤 恒一

反自然科学論争……………(二)三三・177—三三・190…  
「抽象」について……………(二)三三・97—三三・122…A.N.  
クワイヤット 神野慈一郎訳

集団の本質……………(二)三三・123—三三・142…高津 等  
自然の人間から  
人工的国家へ……………(二)三三・143—三三・175…加茂 直樹  
—ホッブスの政治思想—

哲学的知識の問題……………(三)三三・201—三三・210…J.D.  
ユーベン 野田又夫訳

宗教的洞察と真理……………(三)三三・211—三三・221…W.A.  
クリスチャン 森口美都男訳

体系と問……………(三)三三・223—三三・254…樋元 和一  
—理論性の問題—  
(三)三三・310—三三・345

精神分裂病症状の  
背後にあるもの……………(三)三三・255—三三・292…木村 敏

歴史に於ける行為  
と反省(未完)……………(四)三三・293—三三・309…島 芳夫

現象学の真理……………(四)三三・346—三三・372…常俊宗三郎

書評—メルロー・ポン テイ「行動の構造」木 田・滝浦共訳	(四六)・373—六・379…水野和久
形式論理学の 哲學的位置	(五)・381—一六・398…杉原 丈夫
ヘーゲルの精神現象学、 及びそれ以前の諸書に 於ける「生と死の戦」 の思想について	(五)一九・399—四三・423…ジャン・ ブランフト
カントの目的論	(五)四二・425—七六・459…訓覇 暉雄
意味と志向性	(五)六二・461—九一・471…土屋 純一
西洋哲学の特徴	(六)一・473—一七・489…野田 又夫
無 底	(六)一九・491—四六・520…辻村 公一 —シェリング「自由論」に於ける—
古典ニヤールヤ学派のア ートマン論とその背景	(六)四九・521—七三・545…服部 正明
シナの倫理思想に於け る「規範」と「現実」	(六)五五・547—六九・567…湯浅 幸孫
行動主義と意識の問題	(六)六七・569—一三三・585…園原 太郎
善悪と自他	(六)一二五・587—一三三・604…森口美都男
芸術制作における 内在・超越の問題	(六)一三三・605—一五九・631…井島 勉
縄文文化の時代の土偶 彫刻における抽象と具 象の芸術的意味	(六)一六六・633—一八七・659…蓮実 重康
社会事象としての多 数決について	(六)一九六・661—二〇六・678…池田 義祐
存在と知識	(六)二〇七・679—二二六・708…梶山 雄一 —仏教哲学諸派の論争—
使徒パウロの回心と それをめぐる諸問題	(六)二三七・709—二四一・743…武藤 一雄
哲学研究の恩を思う	(六)二四四・746—二七四・747…植田 寿蔵

哲学研究の初めの頃	(六)七五・747—二六六・748…山内 得立
回 想	(六)二七六・748—二七六・750…下村寅太郎
編輯回思	(六)二七六・750—二八二・754…三村 勉